

**2024年度
大学院社会学研究科
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

【発行日：2024/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【X6000】社会学基礎演習1 [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1
【X6001】社会学基礎演習2 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	2
【X6002】社会学基礎演習3 [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	3
【X6003】理論社会学1 (理論社会学入門) [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	4
【X6004】理論社会学3 (ケアと支援の社会学) [三井 さよ] 春学期授業/Spring	5
【X6005】理論社会学4 (ベーシックインカム研究) [岡野内 正] 春学期授業/Spring	6
【X6006】理論社会学基礎1 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	7
【X6007】理論社会学基礎2 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	8
【X6008】社会学特殊研究1 (国際移住の社会学) [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	9
【X6009】社会学特殊研究2 (若者問題の現状と課題) [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	10
【X6010】社会学特殊研究3 (社会運動としての成人教育運動の国際的展開) [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	11
【X6012】社会学特殊研究4 (文化社会学) [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	12
【X6014】社会学特殊研究5 [丸山 里美] 春学期集中/Intensive(Spring)	13
【X6015】社会学特殊研究6 [三輪 誠司] 春学期集中/Intensive(Spring)	14
【X6016】統計分析法 [胡中 孟徳] 秋学期授業/Fall	16
【X6017】調査研究法 [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	17
【X6018】質的資料分析法 [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	18
【X6019】メディア社会学基礎演習1 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	19
【X6020】メディア社会学基礎演習2 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	20
【X6021】メディア社会学基礎演習3 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	21
【X6022】メディア理論1 (メディアの歴史と思想) [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	22
【X6023】メディア理論2 (ニュースフレーム論) [藤田 真文] 春学期授業/Spring	23
【X6024】メディア理論3 (ジャーナリズム研究) [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	24
【X6025】メディア特殊研究1 (ブランド広告の意味研究) [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	25
【X6026】メディア特殊研究2 (コラボレーションの情報学) [森 幹彦] 秋学期授業/Fall	26
【X6027】メディア社会学特殊研究1 (知的財産権法) [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	27
【X6028】メディア研究実習1 [山口 仁] 春学期授業/Spring	28
【X6029】メディア研究実習2 [北原 利行] 秋学期授業/Fall	29
【X6030】メディア研究実習3 [高瀬 文人] 秋学期授業/Fall	31
【X6031】学際研究1 (歴史学の方法) [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	33
【X6032】学際研究2 (場の質的心理学) [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	34
【X6033】学際研究3 (未定) [李 舜志] 秋学期授業/Fall	35
【X6034】社会科学研究法1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	36
【X6038】外国書講読1 (英語) [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	37
【X6040】外国書講読1 (英語) [水野 剛也] 春学期授業/Spring	38
【X6041】外国書講読2 (英語) [吉田 公記] 秋学期授業/Fall	39
【X6042】外国書講読1 (仏語) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	40
【X6043】外国書講読2 (仏語) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	41
【X6044】外国書講読1 (独語) [濱中 春] 春学期授業/Spring	42
【X6045】外国書講読2 (独語) [濱中 春] 秋学期授業/Fall	43
【X6046】外国書講読1 (中国語) [綿貫 哲郎] 春学期授業/Spring	44
【X6047】外国書講読2 (中国語) [綿貫 哲郎] 秋学期授業/Fall	45
【X6050】社会学原典講読 [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	46
【X6051】修士論文指導 I A [社会学専攻教員] 春学期授業/Spring	47

[X6052]	修士論文指導ⅠA	[藤田 真文]	春学期授業/Spring	48
[X6053]	修士論文指導ⅠA	[三井 さよ]	春学期授業/Spring	49
[X6054]	修士論文指導ⅠA	[恵羅 さとみ]	春学期授業/Spring	50
[X6055]	修士論文指導ⅠA	[鈴木 智之]	春学期授業/Spring	51
[X6056]	修士論文指導ⅠA	[藤代 裕之]	春学期授業/Spring	52
[X6061]	修士論文指導ⅠB	[社会学専攻教員]	秋学期授業/Fall	53
[X6062]	修士論文指導ⅠB	[藤田 真文]	秋学期授業/Fall	54
[X6063]	修士論文指導ⅠB	[三井 さよ]	秋学期授業/Fall	55
[X6064]	修士論文指導ⅠB	[恵羅 さとみ]	秋学期授業/Fall	56
[X6065]	修士論文指導ⅠB	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	57
[X6066]	修士論文指導ⅠB	[藤代 裕之]	秋学期授業/Fall	58
[X6071]	修士論文指導ⅡA	[社会学専攻教員]	春学期授業/Spring	59
[X6072]	修士論文指導ⅡA	[鈴木 智之]	春学期授業/Spring	60
[X6073]	修士論文指導ⅡA	[田嶋 淳子]	春学期授業/Spring	61
[X6074]	修士論文指導ⅡA	[藤田 真文]	春学期授業/Spring	62
[X6081]	修士論文指導ⅡB	[社会学専攻教員]	秋学期授業/Fall	63
[X6082]	修士論文指導ⅡB	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	64
[X6083]	修士論文指導ⅡB	[田嶋 淳子]	秋学期授業/Fall	65
[X6084]	修士論文指導ⅡB	[藤田 真文]	秋学期授業/Fall	66
[X6300]	博士論文指導ⅠA	[社会学専攻教員]	春学期授業/Spring	67
[X6301]	博士論文指導ⅠA	[佐藤 成基]	春学期授業/Spring	68
[X6302]	博士論文指導ⅠA	[堅田 香緒里]	春学期授業/Spring	69
[X6303]	博士論文指導ⅠA	[小林 直毅]	春学期授業/Spring	70
[X6305]	博士論文指導ⅠB	[社会学専攻教員]	秋学期授業/Fall	71
[X6306]	博士論文指導ⅠB	[佐藤 成基]	秋学期授業/Fall	72
[X6307]	博士論文指導ⅠB	[堅田 香緒里]	秋学期授業/Fall	73
[X6308]	博士論文指導ⅠB	[小林 直毅]	秋学期授業/Fall	74
[X6310]	博士論文指導ⅡA	[社会学専攻教員]	春学期授業/Spring	75
[X6311]	博士論文指導ⅡA	[鈴木 智之]	春学期授業/Spring	76
[X6315]	博士論文指導ⅡB	[社会学専攻教員]	秋学期授業/Fall	77
[X6316]	博士論文指導ⅡB	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	78
[X6320]	博士論文指導ⅢA	[社会学専攻教員]	春学期授業/Spring	79
[X6321]	博士論文指導ⅢA	[慎 蒼宇]	春学期授業/Spring	80
[X6322]	博士論文指導ⅢA	[岡野内 正]	春学期授業/Spring	81
[X6323]	博士論文指導ⅢA	[徳安 彰]	春学期授業/Spring	82
[X6324]	博士論文指導ⅢA	[鈴木 智之]	春学期授業/Spring	83
[X6325]	博士論文指導ⅢA	[藤田 真文]	春学期授業/Spring	84
[X6330]	博士論文指導ⅢB	[社会学専攻教員]	秋学期授業/Fall	85
[X6331]	博士論文指導ⅢB	[慎 蒼宇]	秋学期授業/Fall	86
[X6332]	博士論文指導ⅢB	[岡野内 正]	秋学期授業/Fall	87
[X6333]	博士論文指導ⅢB	[徳安 彰]	秋学期授業/Fall	88
[X6334]	博士論文指導ⅢB	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	89
[X6335]	博士論文指導ⅢB	[藤田 真文]	秋学期授業/Fall	90
[X6340]	社会学総合演習A	[社会学専攻教員]	春学期授業/Spring	91
[X6341]	社会学総合演習B	[社会学専攻教員]	秋学期授業/Fall	92
[X6342]	社会学研究1	[GEORGE HANN]	秋学期授業/Fall	93
[X6343]	社会学研究2	[丸山 里美]	春学期集中/Intensive(Spring)	94
[X6344]	社会学研究3	[三輪 誠司]	春学期集中/Intensive(Spring)	95
[X6345]	社会調査法1	[恵羅 さとみ]	春学期授業/Spring	96
[X6346]	社会調査法2	[胡中 孟徳]	秋学期授業/Fall	97
[X6347]	社会調査法3	[堀川 三郎]	春学期授業/Spring	98
[X6348]	社会学原典研究1	[二村 まどか]	秋学期授業/Fall	99

SOC600E1 - 1100 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習 1

鈴木 智道

備考（履修条件等）：社会学基礎演習3と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程1年生を対象に、大学院での研究の進め方、修士論文のテーマ設定、論文の構成の仕方を修得し、各自が修士課程における研究の計画・論文の構想を立てるまでを支援する。あわせて、「研究」とは何か、「論文を書く」とはどのようなことかについての基本的な理解の獲得を目指す。

【到達目標】

春学期末までに、各自の問題関心と論文のテーマを確定し、研究の方法を模索しながら具体的な研究計画を立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

なお、本演習は「社会学基礎演習3」（修士課程2年対象）と合同で開講する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	修士課程1年による	問題関心報告
	報告	
第3回	研究倫理教育	研究倫理eラーニングコース (eL CoRE)の受講
第4回	修士課程2年による	修論構想報告
	報告①	
第5回	修士課程2年による	修論構想報告
	報告②	
第6回	修士課程1年による	研究計画報告
	報告①	
第7回	修士課程1年による	研究計画報告
	報告②	
第8回	修士課程1年による	研究計画報告
	報告③	
第9回	修士課程2年による	修論中間報告
	報告①	
第10回	修士課程2年による	修論中間報告
	報告②	
第11回	修士課程2年による	修論中間報告
	報告③	
第12回	修士課程1年による	修論構想報告
	報告①	
第13回	修士課程1年による	修論構想報告
	報告②	
第14回	修士課程1年による	修論構想報告
	報告③	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ>家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to make the research theme clear and decide on the research plan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC600E1 - 1101 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習 2

鈴木 智之

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学コースの修士課程1年生を対象に、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に照準化して、研究デザインの構築をめざす。あわせて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象(素材・データ)を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内に行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	論文の主題と方法①	過去の論文に学ぶ①
第3回	論文の主題と方法②	過去の論文に学ぶ②
第4回	論文の主題と方法③	過去の論文に学ぶ③
第5回	論文の主題と方法④	過去の論文に学ぶ④
第6回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第7回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第8回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第9回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第10回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第11回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第12回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第13回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第14回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容および毎回の議論への参加(60%)、レポート(40%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、理論社会学

<研究テーマ>

語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students design their research plans for writing a master thesis. Students are expected to make the research question clear and write an introductory chapter.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and the quality of the final report (40%).

SOC600E1 - 1102 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習3

鈴木 智道

備考（履修条件等）：**社会学基礎演習1と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程2年生を対象に、修士論文の構想、研究の進め方、完成までの筋道の立て方を、受講者全員の議論を通じて考えていく。

【到達目標】

春学期末までに、修士論文の章立て、ならびに最終的な研究計画を確定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

なお、本演習は「社会学基礎演習1」（修士課程1年対象）と合同で開講する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	修士課程1年による報告	問題関心報告
第3回	研究倫理教育	研究倫理eラーニングコース（eL CoRE）の受講
第4回	修士課程2年による報告①	修論構想報告
第5回	修士課程2年による報告②	修論構想報告
第6回	修士課程1年による報告①	研究計画報告
第7回	修士課程1年による報告②	研究計画報告
第8回	修士課程1年による報告③	研究計画報告
第9回	修士課程2年による報告①	修論中間報告
第10回	修士課程2年による報告②	修論中間報告
第11回	修士課程2年による報告③	修論中間報告
第12回	修士課程1年による報告①	修論構想報告
第13回	修士課程1年による報告②	修論構想報告
第14回	修士課程1年による報告③	修論構想報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ>家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to design chapters of the master thesis according to the research plan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC500E1 - 1200 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学 1 (理論社会学入門)

佐藤 成基

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学を学ぶ上で社会学理論の基礎を身につけることは極めて重要である。この授業では、英語で書かれた最近の社会学理論の概説書を講読しながら、社会学理論の基本的発想法、主要なパラダイムとその論法について学び、その現代的な有効性についての理解を得る。

【到達目標】

社会学理論の基本的な発想法、その主要なパラダイムとその論法について学び、その現代的な有効性についての理解を得るとともに、社会学理論の諸概念や発想法を自分の研究に活かせるようなスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

David Inglis (with Christopher Thorpe), *An Invitation to Social Theory* (Polity 2019) の前半部分を講読する。毎回、受講者の一人に担当箇所の内容をまとめたレジュメを作成し、その報告をしてもらい、それに基づいて討論する。また、受講者は毎週、該当部分に関するコメント・疑問をメモにして提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的・方法についての説明
第2回	社会学理論に繰り返し現れる三つのテーマ	事実と認識、構造とエージェンシー、近代性
第3回	社会学理論の前提となる古典的理論	カントとヘーゲル
第4回	3つの二項図式	近代/前近代、実証主義/解釈主義、物質と理念
第5回	機能主義理論のパラダイム (1)	パーソンズ
第6回	機能主義理論のパラダイム (2)	パーソンズ以後、およびルーマン
第7回	マルクス主義理論と批判理論のパラダイム (1)	マルクスとフランクフルト学派
第8回	マルクス主義理論と批判理論のパラダイム (2)	ハーバーマスとグラムシ
第9回	現象学のパラダイム (1)	シュッツとバーガー/ルックマン
第10回	現象学のパラダイム (2)	エスノメソドロジーとメルロ＝ポンティ
第11回	シンボリック相互行為論のパラダイム (1)	ミードとシカゴ学派
第12回	シンボリック相互行為論のパラダイム (2)	ゴッフマン
第13回	合理的選択理論と交換理論のパラダイム (1)	交換理論とコールマン
第14回	合理的選択理論と交換理論のパラダイム (2)	分析的マルクス主義と合理選択論批判

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

David Inglis (with Christopher Thorpe), *An Invitation to Social Theory* (Polity 2019)

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の参加の度合い (25%)、レジュメと報告 (25%)、ゼミ論文 (50%) によって評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究、社会学の理論・学説、歴史社会学

<主要研究業績>

『国家の社会学』(青弓社, 2014年)

『国民とは誰のことか ドイツ近現代における国籍法の形成と展開』(花伝社, 2023年)

『国家の正当性と象徴暴力 ―ブルデューの国家論からみる国家とナショナリズム』北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学 第1巻 理論と方法』(岩波書店, 2023年)

【Outline (in English)】

(Course outline) By reading the first half David Inglis's *An Invitation to Social Theory* (Polity 2019, co-authored with Christopher Thorpe) carefully, the course seeks to help you understand the basic logics of the main theoretical paradigms of sociological theories and to consider their significance and validity in the contemporary world.

(Learning Objectives) For the students of sociology, it is very important to learn the basics of sociological theory. The objective of this class is to understand the "ways of theoretical thinking" in sociology and to develop skills of using the main categories and ideas of sociological theories for your own research.

(Learning activities outside of classroom) None

(Grading Criteria /Policy) Grades are based upon class participation (25%), in-class presentation assignments (25%), and seminar paper (50%).

SOC500E1 - 1202 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学3 (ケアと支援の社会学)

三井 さよ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

具体的には、ケアや支援を、より広い社会的文脈の中で捉え返すと同時に、個人々の臨床的な視点にも立つためには、どのような態度がありうるかを学ぶ。それを通して、個人的な事柄と社会的な文脈とを結びつける社会学的な思考法を深めることを目的とする。

【到達目標】

「個人的なこと」とされがちな事柄を、「社会的なこと」として位置づけることの意義と意味について学ぶ。同時に、「社会的なこと」として切り取ってしまうことの暴力性と限界についても学ぶ。さらにはそれを、自身の社会学的な考察に活かせるようになることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、ケアや支援の現場で生じるさまざまな課題について、より広い社会的文脈との接点を見つけながら位置づけなおす方法を考える。主に文献講読と、受講者による自由報告を行う。その際、自由なディスカッションを重視する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	ケアや支援と社会的文脈	教員による解説
3	自由報告①	各自の問題関心に応じて報告①
4	自由報告②	各自の問題関心に応じて報告②
5	自由報告③	各自の問題関心に応じて報告③
6	文献講読①	ケアと暴力①
7	文献講読②	ケアと暴力②
8	文献講読③	ケアと安全①
9	文献講読④	ケアと安全②
10	文献講読⑤	安全と暴力①
11	文献講読⑥	安全と暴力②
12	自由報告④	各自の問題関心に応じて報告④
13	自由報告⑤	各自の問題関心に応じて報告⑤
14	総合討論	授業内容を踏まえた総合討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定文献を講読する。また、各自の研究内容への応用についてともに考えるため、各自の研究内容についての報告も求める。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

三井さよ 2023 『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』生活書院

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(50%)、議論への積極的貢献(50%)などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

臨床社会学

【担当教員の研究テーマ】

支援・ケアについての相互行為論的分析

【担当教員の主要業績】

2004 『ケアの社会学：臨床現場との対話』勁草書房
 2010 『看護とケア：心揺り動かされる仕事とは』角川学芸出版
 2018 『はじめてのケア論』有斐閣
 2020 『支援のついで』生活書院(児玉雄大との共編著)
 2021 『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院
 2023 『はじめての社会調査』世界思想社(三谷はるよ・西川知亨・工藤保則と共編著)
 2023 『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』生活書院

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the way of sociological thinking through understanding the social contexts around caring and supporting. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Short reports, in class contribution.

SOC500E1 - 1203 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学4 (ベーシックインカム研究)

岡野内 正

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ベーシックインカム研究の前提となる社会理論として、シルヴィア・フェデリチによるフェミニズム理論の概要をつかむ。この授業では、『キャリバンと魔女』をゼミ形式で精読しながら岡野内『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』と関連づけて議論することで、その理解を深めていく。

【到達目標】

テキストの基本的な内容を理解し、報告、討論を通じて、批判的な読解力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる読書会形式で、担当を決めてテキストを読み、要約と疑問点、論点を出し合い、議論しつつ解決していきます。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の箇所について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④議論したい論点、を書き込んでいきます。課題などへのフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての打ち合わせ。 この授業テーマに関する自由討論による授業に取り組むうえでの問題意識の明確化。
第2回	中世ヨーロッパの社会運動と政治危機	序章、第1章前半の内容に関する報告と討論。
第3回	中世ヨーロッパの社会運動と政治危機	第1章後半に関する報告と討論。
第4回	資本主義への移行における差異の構築	第2章前半に関する報告と討論。
第5回	資本主義への移行における差異の構築	第2章後半に関する報告と討論。
第6回	反抗する身体との闘い	第3章に関する報告と討論。
第7回	ヨーロッパの魔女狩り	第4章前半に関する報告と討論。
第8回	ヨーロッパの魔女狩り	第4章後半に関する報告と討論。
第9回	植民地化とキリスト教化	第5章前半に関する報告と討論。
第10回	植民地化とキリスト教化	第5章後半に関する報告と討論。
第11回	新しい囲い込み論	Re-enchantingの第1部前半に関する報告と討論。
第12回	新しい囲い込み論	同上第1部後半に関する報告と討論。
第13回	コモンス論	同上第2部前半に関する報告と討論。
第14回	コモンス論	同上第2部後半に関する報告と討論。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムの掲示板に、毎回の授業についての書き込みをする必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

シルヴィア・フェデリチ著、小田原他訳『キャリバンと魔女』以文社、2017年。
Silvia Federici, *Re-enchanting the World; Feminism and the Politics of the Commons*, PM Press, 2019.

【参考書】

岡野内 正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程——批判開発学/SDGsとの対話』法律文化社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加と、毎回の授業についての書き込みの4つの論点について、25点ずつ合計100点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板を用いて、公開で議論を進めるやり方が役に立ったという意見に基づいて、引き続き進めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会理論、国際政治経済学

<研究テーマ>グローバル・ベーシック・インカム研究

<主要研究業績>岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』(法律文化社、2021年)、岡野内他著『グローバル・ベーシック・インカム入門』(明石書店、2016年)など。

【Outline (in English)】

A seminar class for students who wish to understand the feminist social theory of Sylvia Federici. In this advanced class, "Caliban and The Witch" will be read and discussed with attention to T.Okanouchi's "Perspectives to Global Basic Income Scheme"(Houritsu Bunka-Sha: Kyoto, 2021).

SOC500E1 - 1300 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学基礎 1

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史 I」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに19世紀から20世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院で研究を進めるための素養として古典的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19世紀から20世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント／スペンサー	三段階の法則、社会進化、軍事型社会／産業型社会
4	マルクス	史的唯物論、階級構造と階級闘争、疎外、使用価値と交換価値
5	テンニース	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
6	ヴェーバー(1)	合理化、合理性の諸類型
7	ヴェーバー(2)	資本主義の精神、鉄の檻
8	ヴェーバー(3)	支配の諸類型、官僚制
9	デュルケム(1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
10	デュルケム(2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
11	デュルケム(3)	聖と俗、集合的沸騰
12	ジンメル(1)	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル(2)	支配と従属の諸類型
14	ジンメル(3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未來社
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史 I・II』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通じた学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1301 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学基礎2

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院での研究を進めるための基本的素養として、社会学の現代的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	シュッツ	現象学的社会学、日常生活世界、間主観性、多面的現実
4	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
5	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
6	ブルーマー	シンボリック相互作用論
7	パーソンズ	社会的機能、社会進化
8	ルーマン	オートポイエーシス、社会分化
9	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
10	フーコー	規律化、主体、生権力
11	ブルデュー	文化資本、再生産
12	ウォーラーステイン	世界システム、中心と周辺
13	ギデンズ	モダニティ
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通じた学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。

授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1205 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 1 (国際移住の社会学)

田嶋 淳子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化の中での国際移住に関わる諸問題を考える。

【到達目標】

国際移住の現状を把握し、その問題について、日本社会あるいは東アジア諸地域を対象に社会調査を実施することが可能となること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を以下の項目について3~4回程度で学んでいく。

- ①国際移住研究の現状と課題
- ②国際移住研究に関する概念の検討
- ③国際移住研究の方法
- ④日本における国際移住研究の現状と課題

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1講	国際移住研究の現在 (1)	本講義の進め方と取り上げる文献や資料についての説明。
第2講	国際移住研究の現在 (2)	Castles & Miller,2011を読み、1990年代までの国際移住研究の現状を学ぶ。
第3講	国際移住研究の現在 (3)	Castlesらの研究から2000年代以降の研究の展開を学ぶ。
第4講	国際移住研究の課題	国際移住研究の現状を踏まえ、その後の理論的展開について、いくつかの論文を参照する。
第5講	国際移住研究における概念の検討 (1)	アメリカにおける国際移住研究の中のtransnationalism (Smith & Guarnizo,1998)
第6講	国際移住研究における概念の検討 (2)	ヨーロッパにおける国際移住研究の中のransnationalism,(Faist,2004)
第7講	国際移住研究における概念の検討 (3)	Diaspora 概念の検討
第8講	国際移住研究の方法 (1)	事例研究1：日本における中国系移住者 (田嶋,2010)
第9講	国際移住研究の方法 (2)	事例研究2：日本における韓国系移住者 (田嶋,2010)
第10講	国際移住研究の方法 (3)	事例研究3：東アジアにおける中国系移住者 (田嶋,2010)
第11講	日本における国際移住研究の現状 (1)	フィールドワーク (実際にフィールドに出て、課題をこなす)
第12講	日本における国際移住研究の現状 (2)	これまでに学んだことと、フィールドでの知見をあわせて、各自がレポートを作成し、報告する。
第13講	国際移住研究 (調査研究事例)	アメリカにおける中国系移住者研究の現在 (Zhou,2009)
第14講	国際移住研究 (調査研究事例)	韓国系移住者研究の現在 (高, 2007)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回までに指定された文献の講読と関連論文の講読、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

- 1.カースルズ,S.&ミラー, M.J.2011『国際移民の時代 (第4版)』名古屋大学出版会。
- 2.田嶋淳子, 2010『国際移住の社会学』明石書店。その他は講義の中で指示する。

【参考書】

- 1.Hein de Haas,S.Castles & M.J.Miller,2020 The Age of Migration(6th edition),Red Globe Press,London.
- 2.M.P.Smith &L.E.Guarnizo (eds.),1998, *Transnationalism From Below (Comparative Urban & Community Research Vol.6)* New Brunswick, New Jersey,Transaction Publishers.
- 3.T.Faist ed.2004 *Transnational Social spaces :Agents, Networks and Institutions* ,Aldershot,Ashgate.
- 4.Zhou,M.2009*The Contemporary Chinese American*,Temple University Press.
- 5.高全恵星監修・柏崎千佳子訳, 2007『ディアスポラとしてのコリアン』新幹社。

6.栗田和明編, 2018『移民と移住』昭和堂。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表 (30%) とコメント 20%、レポート課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
 <研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
 <主要研究業績>

- 1.『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
- 2.「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂,2018年
- 3.「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第13号、66-78ページ、2021年。

【Outline (in English)】

Course Outline

Graduate school students will study various issues of international migration in the age of globalization

Learning Objectives

Students will understand the realities of international migration and conduct surveys concerning Japan and East Asia.

Learning Activities Outside Class

Students will do assigned readings and read related papers before each class. Standard duration will be two hours.

Assessment

Class presentations (30%), comments on presentations given by other students (20%) and reports (50%)

SOC500E1 - 1206 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究2 (若者問題の現状と課題)

樋口 明彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1990年代半ば以降、雇用の不安定化は、日本の若者の社会的地位に大きな影響を及ぼすことになった。その結果、教育・雇用・社会保障を視野に入れた若者政策の整備が本格的に進展するようになる。本科目では、日本語文献を丹念に読みながら、日本の若者政策の現状と課題を検討する。

【到達目標】

テキストの検討を通じて、日本の若者政策に関する中程度の知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習。参加者の関心に合わせて、教科書から9本のテキストを選び、学生による報告およびディスカッションを行う。3回の講読ごとに、講読論文のテーマに基づいて、それぞれの学生が海外の事例報告を行い、国際比較ワークショップを行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	日本の若者政策について
2	第1論文講読	学生報告およびディスカッション
3	第2論文講読	学生報告およびディスカッション
4	第3論文講読	学生報告およびディスカッション
5	第1～第3論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
6	第4論文講読	学生報告およびディスカッション
7	第5論文講読	学生報告およびディスカッション
8	第6論文講読	学生報告およびディスカッション
9	第4～第6論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
10	第7論文講読	学生報告およびディスカッション
11	第8論文講読	学生報告およびディスカッション
12	第9論文講読	学生報告およびディスカッション
13	第7～第9論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
14	まとめ	若者政策の課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献講読、学生報告のレジュメ作成、国際比較ワークショップのレジュメ作成

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

乾彰夫・本田由紀・中村高康編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

※テキストは、原則、配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ①報告 (50%)
- ②ディスカッション (50%)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす。

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要研究業績】

樋口明彦、2021、「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障：横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店。

樋口明彦、2017、「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline (in English)】

This lecture is about the youth policy in Japan. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Your study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC500E1 - 1207 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究3 (社会運動としての成人教育運動の国際的展開)

荒井 容子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

成人教育政策とは一線を画す、成人教育運動は社会運動としての性格をもって各国で発展し、国際機関の発達と並行して、国際的運動としても発展してきた。その過程は、国内、国際双方で、権力による成人教育政策との緊張関係をもって展開されてきた。また同じ成人教育運動として、国内と国際双方の関係のあり方も模索されてきた。これらの具体的な歴史を、事例をもとに概観しながら、それらの関係について、分析していく。

【到達目標】

この講義では、成人教育の運動が本質的にもつその社会運動としての性格を理解し、そのうえで、成人教育運動の国内及び国際的な展開と、成人教育政策の展開と社会運動の展開との関係について考え、また、今後の成人教育運動のあり方を考える力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回 講義内容をもとに、議論をしていく。事前に資料を配布して検討してきてもらい、議論をする場合もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	成人教育運動をどうとらえるか (ガイダンス)	学習運動・成人教育運動と社会運動との関係
2	成人教育運動の国内展開と国際的展開(1)	WEA (英国労働者教育協会) の諸外国への影響
3	成人教育運動の国内展開と国際的展開(2)	成人教育「世界組織」の結成と世界大会
4	国際機関を通じた成人教育運動のはじまり(1)	ユネスコ成人教育会議の開催と展開
5	国際機関を通じた成人教育運動のはじまり(2)	ユネスコ教育研究所の発足と展開 (含 その後のユネスコ生涯学習研究所としての展開)
6	国際機関から独立した国際的成人教育運動のはじまり	国際成人教育協議会の発足
7	社会運動と国際的政策の展開(1)	1970~80年代の展開
8	社会運動と国際的政策の展開(2)	1990年代以降の展開
9	成人教育運動と社会運動の国際的展開(1)	1970~80年代の展開
10	成人教育運動と社会運動の国際的展開(2)	1990年代以降の展開
11	成人教育運動の国際的展開の意味(1)	成人教育の国際的政策との関係
12	成人教育運動の国際的展開の意味(2)	成人教育の各国における政策との関係
13	成人教育運動の国際的展開の意味(3)	各国の成人教育運動との関係
14	社会運動としての成人教育運動の国際的展開の意味	まとめ-総括討議-

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した作成したファイルを、学習支援システムを通じて事前に配布するほか、適宜指示する。

【参考書】

国際成人教育協議会(International Council for Adult Education)のホームページ <http://icae.global/>
 ユネスコ生涯学習研究所(The UNESCO Institute for Lifelong Learning)のホームページ <https://uil.unesco.org/>

【成績評価の方法と基準】

講義時の討議への積極的参加の度合いを30%、最終レポート(テーマに関しての理解度と独自の見解の存在及びその質)を70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成人教育に関する事前の学習が不足している場合の配慮、対応の必要。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会教育学

<研究テーマ>成人教育運動、社会教育法制度、社会教育実践、公民館、

社会教育職員

<主要研究業績>

①国際成人教育協議会(ICAIE)の課題意識発展の過程

-成人教育運動の国際的展開に関する研究(1)-

『社会志林』(法政大学社会学部紀要)第54巻 第3号

(2007年12月) p.55-74

②「成人教育運動の国際的連帯(4)

-第6回国際成人教育会の本会議(ベレン会議)の概要と日本国内の動き-

『月刊社会教育』No.655 2010年5月号, pp63-69

③「社会教育法と国際的動向」社会教育推進全国協議会『社会教育法60年-権利としての社会教育を活かす』2010年8月28日 pp.66-75

④「成人教育運動の国際的展開」を追い続けて気づかされたこと

教育実践検討会編『問い続けるわれら-生涯学習人として生きる』第

2集

「教育実践検討会」発行 2012年4月1日 pp.320-346

⑤「第3編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向(国際機関・欧米)」

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』

第8版 エイデル研究所 2011年7月30日 pp.202-217

⑥解説「成人教育の発展に関する勧告」 pp.350-351

「カナダの成人教育・生涯学習」 pp.78-79

「国際成人教育協議会」 p.162

「ユネスコ『大衆の文化的生活への参加及び寄与を促進する勧告』」

p.596

「ハンブルク宣言」 p.504

「ユネスコ国際成人教育会議」 pp.595-596

社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年11月30日

⑦「第3編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向(国際機関・組織)」

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』

第9版 エイデル研究所 2017年10月10日 pp.247-263

⑧「ユネスコ第6回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」編著

『日本の社会教育・成人教育 最近12年の政策・実践・運動:分析と

提言

-第6回国際成人教育会議(CONFINTEA VI)に向けた

市民社会組織からの報告-』(デジタル版) 2009年11月23日

<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/>

CSOsREPfinaljpcore100321.pdf

(英語版)

Social Education/Adult Education in Japan Policies, Practices and Movements

during the last 12 years: Analysis and Recommendations

- A Report from Civil Society Organizations to the Sixth International Conference

for Adult Education (CONFINTEA VI) - (CSOs report)

written and edited by Japanese Domestic Grass-roots Meeting for CONFINTEA VI (digital), November 2009

<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/>

CSOsREPfinalcore100107.pdf)

⑨「カナダの成人識字教育者たち

-困難な中、実践のための研究運動を切り開く-

『月刊社会教育』No.606 2006年4月号 pp.64-70

⑩「ユネスコ第6回国際成人教育会議中間総括会議(スウォン)と

コミュニティ・ラーニングセンターをめぐる議論

-ドイト成人教育協会国際部主催のサイドイベントに注目して-

『日本公民館学会年報』第15号 2018年12月10日 pp.68-74

【Outline (in English)】

This course reviews the history of adult education movements, especially international ones, and has two focuses. One is on the relation between domestic movements and international ones. The other focus is on the relation between adult education policies and adult education movements both domestic level and international one. Recognizing complex structure of these relations, we will seek to find out the challenges of adult education movements.

At the end of the course, students are expected to understand the personality of adult education movement for social movements and look at challenges of adult education movements.

Students are required to be active in each class discussion. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading is according to the total evaluation of the final report with the discussion of final class (70%) and class contribution (30%).

SOC500E1 - 1208 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 4 (文化社会学)

武田 俊輔

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市・地域社会における文化に関する文献の講読を行う。それによって、それらの分野の研究を行う上での課題や調査のあり方について理解することを目的とする。

【到達目標】

都市・地域社会における文化、またそれがコミュニティにおいて果たす役割について関する研究を行う上で必要な理論や必要な視点について考察を深め、自身の研究に活かすことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講読と受講生の研究報告を中心に進める。文献や担当については初回の授業で相談する。毎回の報告に対して授業内でフィードバックを行う。なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明。講読する文献および担当についての相談
第2回	文献講読1	祐成保志・武田俊輔編『コミュニティの社会学』第1章～第3章
第3回	文献講読2	G. デランティ『コミュニティ グローバル化と社会理論の変容』前半
第4回	文献講読3	G. デランティ『コミュニティ グローバル化と社会理論の変容』後半
第5回	文献講読4	Z. パウマン『コミュニティ 自由と安全の戦場』前半
第6回	文献講読5	Z. パウマン『コミュニティ 自由と安全の戦場』後半
第7回	文献講読6	阪口毅『流れゆく者たちのコミュニティ 新宿・大久保と「集散的な出来事」の都市モノグラフ』前半
第8回	文献講読7	阪口毅『流れゆく者たちのコミュニティ 新宿・大久保と「集散的な出来事」の都市モノグラフ』後半
第9回	文献講読8	金善美『隅田川・向島のエスノグラフィー 「下町らしさ」のパラドックスを生きる』前半
第10回	文献講読9	金善美『隅田川・向島のエスノグラフィー 「下町らしさ」のパラドックスを生きる』後半
第11回	受講生による研究報告1	受講生自身が自身の研究について報告し、全員でディスカッションを行う。
第12回	受講生による研究報告2	受講生自身が自身の研究について報告し、全員でディスカッションを行う。
第13回	受講生による研究報告3	受講生自身が自身の研究について報告し、全員でディスカッションを行う。
第14回	まとめ	この授業全体を通してのまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

なし。

【参考書】

授業計画内に挙示している。

【成績評価の方法と基準】

文献報告(35%)、毎回のディスカッションへの参加(30%)、個人の研究報告(35%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学・地域社会学・メディア論

<研究テーマ>

地方都市の社会構造・社会的ネットワーク、戦後日本における「農村」や「ふるさと」の表象とその構築プロセス、都市祭礼・民俗芸能の近現代における変容と再編成

<主要研究業績>

武田俊輔,2019,『コモズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

出口剛司・武田俊輔編,2022,『社会の読解力(文化編)：生成する文化への参照』新曜社。

祐成保志・武田俊輔編,2023,『コミュニティの社会学』有斐閣。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will include reviews of the literature on culture in urban and regional communities.

(Learning Objectives)

The goal is to gain insight into the issues and research methods involved in conducting research in these fields.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Literature report (35%), participation in each discussion (30%), individual research report (35%)

SOC500E1 - 1209 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究5

丸山 里美

備考(履修条件等)：博士後期課程「社会学研究2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

【概要】

本クラスでは、個人報告と文献講読によって、1) 臨床社会学的研究、2) 質的調査研究とそれを論文としてまとめる方法について学びます。

【目的】

以上を通して、受講生各自が自分自身の研究力を向上させることを目的とします。

【到達目標】

- ・臨床社会学的視点とは何かについて、説明することができる。
- ・質的調査方法論を理解し、自分の研究に活かすことができる。
- ・理論的な分析視角を設定し、自分自身の質的データを意味ある社会学研究としてまとめあげていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式(個人報告および文献講読)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方
第2回	個人報告	受講生が自分自身の研究について報告し、ディスカッション
第3回	個人報告	受講生が自分自身の研究について報告し、ディスカッション
第4回	文献講読	指定文献の第1章(『質的社会調査の方法』)を読み、質的調査の特徴を理解する
第5回	文献講読	指定文献の第1章(『質的社会調査の方法』)を読み、フィールドワークについて、その特徴を理解する
第6回	文献講読	指定文献の第1章(『質的社会調査の方法』)を読み、参与観察について、その特徴を理解する
第7回	文献講読	指定文献の第4章(『質的社会調査の方法』)を読み、生活史法について、その特徴を理解する
第8回	文献講読	指定文献の第1章(『女性ホームレスとして生きる』)を読み、質的調査の設計の仕方について理解する
第9回	文献講読	指定文献の第1章(『女性ホームレスとして生きる』)を読み、先行研究のレビューの仕方、問の設定の方法について理解する
第10回	文献講読	指定文献の付録(『女性ホームレスとして生きる』)を読み、質的データを研究として発展させていく方法を学ぶ
第11回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション
第12回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション
第13回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション
第14回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

初日の授業では、受講生に各自の研究報告をしてもらいますので、事前に報告準備をしておいてください。

その他、授業内で指示された指定文献を事前に読んでくること、それ以外に授業内で指示された報告の準備をすることが必要になります。

【テキスト(教科書)】

- ・丸山里美, 2021(2013), 『女性ホームレスとして生きる——貧困と排除の社会学』増補新装版』世界思想社
- ・岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告(50%)、ディスカッション(50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報共有・連絡のために、学習支援システムを利用します。受講前に確認しておいてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

ジェンダー論、貧困研究、質的調査法

<研究テーマ>

貧困とジェンダー

<主要研究業績>

丸山里美, 2021(2013), 『女性ホームレスとして生きる——貧困と排除の社会学』増補孫装版』世界思想社
岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about 1) clinical sociological research and 2) qualitative research studies and how to compile them into a thesis through individual reports and literature readings.

(Learning Objectives)

The aim is for each student to improve his or her own research skills.

(Learning activities outside of classroom)

On the first day of class, students will be asked to report on their own research, so please prepare your report in advance. In addition, students are required to read the designated literature in class in advance and to prepare other reports as instructed in class.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation (50%), Discussion (50%)

SOC500E1 - 1210 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 6

三輪 誠司

備考 (履修条件等)：博士後期課程「社会学研究 3」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、インターネットを通じた情報発信の具体的な手法について、プログラミングを通じて学んでいきます。国や自治体は、さまざまな情報をWEBサイトを通じて発信しているほか、再利用が可能な形式(CSVやエクセルなど)で「オープンデータ」として公開する動きが進んでいます。ジャーナリストは、それらの情報を効率的に収集し、分析することが求められます。講義では、オープンデータの収集方法を手を動かして学ぶほか、現在のインターネットにおける最も代表的な情報発信方法であるWEBアプリケーションについて学びます。プログラミングによって自分でWEBアプリケーションを開発し、データの配備方法について体験します。同時に、個人情報など、外部に公開したくないデータがどうして流出してしまうのかなど、情報セキュリティの基本についても、自前のWEBアプリケーションを通じて体験していきます。

【到達目標】

インターネットを通じた情報の発信が当たり前の時代となっている中、インターネット通信の基礎、自動処理に必要なプログラミング、情報セキュリティの基本を把握し、行政・企業・個人がネットを通じて情報発信する時代に、それに応じた情報収集ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布した資料をもとに講義を進めます。講義では実際に手を動かす実践形式でプログラミングスキルを定着させるよう工夫しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ネット時代の情報公開	講義を通して、行政や企業がインターネットでどのように情報公開をしているのか、実例を学びます。オープンデータの現状とアクセス手法についても実習を通して学び、実例を探して発表してもらいます。
第2回	開発環境構築と簡単なプログラミング	RubyによるWEBアプリ開発のための環境構築(JRubyを使います)を実習を通して学びます。実行環境とエディタのインストール、基本的な使い方を学びます。
第3回	Ruby言語の基礎	講義でRubyの基本を学びます。また、インストールしたRuby実行環境を使って簡単なプログラミングを実習で体験します。さらに目的を達成するためのプログラムを考案し発表してもらいます。
第4回	Sinatraでアプリの骨格を作る	RubyによるWEBアプリフレームワークのSinatra(https://sinatrarb.com/)を使い、WEBアプリを作る実習を行います。

第5回	Sinatraでアプリの拡張をする	画面周りの変更を実習を通して学びます。この際HTMLの記述方法も講義と実習で学びます
第6回	ダミーデータの格納とアクセス	オープンデータに似せたダミーデータを、作成したWEBアプリに格納し、データを公開する実習を行います。ブラウザやコマンドラインツールを使ってアクセスできることを実習によって確認します
第7回	画面作成の手法1・CSSとフレームワーク	自作したWEBアプリについて、書式を定義するCSSを使って文字やレイアウトの変更をする実習を行います。また、CSSフレームワークであるBootstrapの使い方を実習を通して学びます。
第8回	画面作成の手法2・Javascript	ブラウザで動作するプログラミング言語Javascriptによって、動的な画面出力が可能になることを講義と実習で学びます。
第9回	WEBアプリの強化・WEBフォームでパラメータ送信	WEBフォームによって、インタラクティブなWEBアプリが作れることを講義と実習で学びます
第10回	アプリの強化・データベース連携	WEBアプリをデータベースと連携させ、高機能なWEBアプリになるよう拡張する実習を行います。
第11回	アプリの強化・データベースセキュリティの基礎	高機能なWEBアプリに起きがちなセキュリティ対策について講義で学びます。インシデントの具体的なケースを公表データで学びます。
第12回	アプリ改造のヒント	独自のWEBアプリを作るため、これまでのアプリをどのように改造できるかというヒントを講義で学びます。それをもとにこれまで作ったアプリを改造する実習を行います。
第13回	アプリ改造の実践	これまでのアプリの改造や独自の画面などの開発を実習していきます
第14回	独自アプリの披露と検証	独自に開発したWEBアプリを披露してもらいます。また、WEBアプリの最新動向や可能性についても講義で学びます

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

市販の教科書は使用しません

【参考書】

市販の参考書は使用しません

【成績評価の方法と基準】

最後に独自のWEBアプリを開発してもらいます。その中で理解度についての評価を行います(100%)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更により、なし

【学生が準備すべき機器他】

WindowsPCを利用します。必要なソフトウェアは、講義の中で説明し、インストールしていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディアとデジタルテクノロジー
<研究テーマ>報道現場におけるDXと、メディアにおけるデジタル人材育成
<主要研究業績>ロボット記者を目指したITツールの開発。ユーザー企業のAI活用。情報セキュリティ全般

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn specific methods of information dissemination through the Internet by utilizing programming. Countries and local governments are increasingly using websites to disseminate various information, and there is a growing trend to publish information in reusable formats (such as CSV or Excel) as "open data." Journalists are required to efficiently collect and analyze this information.

In the lecture, we will actively learn the methods of collecting open data through hands-on activities. Additionally, we will study web applications, which are currently the most representative means of information dissemination on the Internet. Through programming, participants will develop their own web applications and gain experience in deploying data. Simultaneously, we will explore the basics of information security by experiencing aspects such as how data, including personal information, might unintentionally leak through one's own web application.

In an era where disseminating information through the Internet has become commonplace, it is essential for modern professionals, including journalists, to understand the basics of internet communication, programming necessary for automation, and information security. In the age where administrations, businesses, and individuals communicate information through the internet, the goal of this course is to enable individuals to collect information in accordance with these developments.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process understanding of the application development (100%) .

SOC500E1 - 1302 (社会学 / Sociology 500)

統計分析法

胡中 孟徳

備考(履修条件等)：博士後期課程「社会調査法2」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線形代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第6回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と検証的因子分析	探索的因子分析との比較により、検証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告(40%)とレポート(60%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>教育社会学・生活時間研究
<研究テーマ>生活時間と格差

<主要研究業績>

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤渉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会(2018年、章分担執筆)。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports(60%). The goal of this course is to understand the basics of multivariate analysis, mainly through the study of multiple regression and factor analysis. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 1304 (社会学 / Sociology 500)

調査研究法

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法1」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究において、受講生各自が社会調査を企画・設計し、実施し、分析をおこなうために必要な知識と技法を習得する。そのために社会学の優れた調査研究やそれに関連する方法論的な文献を講読し、社会学の各文献の問題関心とそこから導き出されたデータ収集・分析法について学ぶ。さらに、受講者が各自の問題関心に応じた調査の設計やデータ分析の方向性を構想するとともに、受講生同士のディスカッションを通してその具体化と洗練を図る。

【到達目標】

・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインでの演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論1	社会学と社会調査
第2回	総論2	社会調査の諸類型
第3回	総論3	社会調査の倫理
第4回	研究計画1	研究テーマに関する先行研究のフォーロウと課題の鮮明化
第5回	研究計画2	既存統計データの加工・分析
第6回	フィールドワークの企画・設計1	調査のテーマ、主旨と目的
第7回	フィールドワークの企画・設計2	調査の範囲、予算とスケジュール
第8回	フィールドワークの企画・設計3	調査研究法の選択
第9回	フィールドワークの実際1	観察調査とインタビュー調査
第10回	フィールドワークの実際2	テキストデータの分析
第11回	フィールドワークの実際3	受講者の研究への応用に関する討論
第12回	社会関係を計量する1	調査の実例から
第13回	社会関係を計量する2	受講者の研究への応用に関する討論
第14回	各自の調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したりリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したりリサーチデザインの報告レジュメを作成すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

各回ごとで授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加50%、報告の内容評価50%、十分に準備した報告を行い、修士論文に相応しい調査計画を立案できていること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学生支援システムへのPCによるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格のH科目に該当する。
博士後期課程「社会調査法1」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際社会学、産業・労働社会学

＜研究テーマ＞産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

＜主要研究業績＞『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. By the end of the course, students will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics and recent excellent research. In addition, students will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class presentation:50%、in class contribution:50%

SOC500E1 - 1305 (社会学 / Sociology 500)

質的資料分析法

堀川 三郎

備考(履修条件等)：博士後期課程「社会調査法3」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

質的調査法の基本的理解と、その実践の力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送などの質的データの分析法(内容分析等)を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い/調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー/参与観察/ドキュメント分析/観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー/ライフヒストリー/GTA/会話分析
第4回	実践的課題1(資料を集める)	質問とは何か/ラポールをめぐる論争/調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2(資料を分析する)	記録をつくる/テーマをたてる/データの特性を整理する
第6回	実践的課題3(資料を記述する)	書くとはどういうことか/調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて、資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

- 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美(2016)『質的社会調査の方法』有斐閣
- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法：理論・方法・実践』新曜社

【成績評価の方法と基準】

討議への参加(40%)、演習課題への取り組み(60%)

【学生の意見等からの気づき】

非該当(N/A)

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学、日米比較社会論

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会的分析』(東京大学出版会、2018年)、*Why Place Matters*(Springer, 2021)など

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.

First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.

Learning Objectives

Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC600E1 - 2100 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習 1

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：「メディア社会学基礎演習 3」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマの先行研究となる論文を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に行い、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	メディアコースおよび演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第2回	参加者の研究計画に関する報告	各自の研究計画を報告する
第3回	先行研究の収集状況に関する報告	先行研究の収集状況について報告する
第4回	先行研究の検討(1)	主要な先行研究となる論文の輪読
第5回	先行研究の検討(2)	主要な先行研究となる論文の輪読
第6回	先行研究の検討(3)	主要な先行研究となる論文の輪読
第7回	先行研究の検討(4)	主要な先行研究となる論文の輪読
第8回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第9回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第10回	先行研究の検討(5)	主要な先行研究となる論文の輪読
第11回	先行研究の検討(6)	主要な先行研究となる論文の輪読
第12回	先行研究の検討(7)	主要な先行研究となる論文の輪読
第13回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第14回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の研究テーマに即して、主要な先行研究となる論文を相談の上で選定し、輪読の対象とする。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

総合演習の準備により多くの時間を割く形に授業構成を変更しました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、オーディエンス/ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC600E1 - 2101 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習 2

小林 直毅

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアコースに入学した大学院生として求められる、メディア研究の基礎となる理論と方法を学ぶ。けっしてメディアの世界だけに内向きに狭く閉じこもった問題構成を図ることなく、社会的現象や社会的課題を学術的に考察していくために、人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディアの可能性と課題を広範、かつ系統的に解明することのできる研究資質の形成を図る。

【到達目標】

メディア研究が、どのように問題構成を図り、研究目標を設定し、どのような研究成果を、どのようにして学術論文としてまとめていくべきかを理解し、実践していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究の基礎として不可欠な理論と方法、その実践の可能性を論じたテキストを、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、毎回、報告とディスカッションを重ねていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	研究テーマと問題構成	夏季休暇中の研究成果に即した、分担報告の決定。
第3回	メディア研究とは何か (1)	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第4回	メディア研究とは何か (2)	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第5回	理論と方法 (1)	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第6回	理論と方法 (2)	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第7回	問題構成の視点 (1)	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第8回	問題構成の視点 (2)	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第9回	中間総括	これまでの報告と議論を振り返って、全員でディスカッション。
第10回	実践的課題 (1)	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第11回	実践的課題 (2)	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第12回	メディア研究の課題 (1)	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第13回	メディア研究の課題 (2)	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第14回	総括討論	メディア研究としての各自の論文構想について議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

ロジャー・シルバーストーン (吉見俊哉、伊藤守、土橋臣吾訳) 『なぜメディア研究か——経験・テキスト・他者——』せりか書房。

【参考書】

伊藤守編著 (2009) 『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房。
他の参考文献等は、授業を進める過程で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告 (50%)、ディスカッション (50%) の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア/アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』(世界思想社、2003年)

『テレビはどう見られてきたのか』(共編著、せりか書房、2003年)

『水俣学研究序説』(共著、藤原書店、2004年)

『水俣学講義 [第2集]』(共著、日本評論社、2005年)

『テレビニュースの社会学』(共著、世界思想社、2006年)

『「水俣」の言説と表象』(編著、藤原書店、2007年)

『テレビジョン解体』(共著、慶應義塾大学出版会、2007年)

『ポピュラーTV』(共著、風塵社、2009年)

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』(共著、日外アソシエーツ、2012年)

『メディア・リテラシーの現在—公害/環境問題から読み解く—』(共著、ナカニシヤ出版、2013年)

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』(共著、世界思想社、2014年)

『原発震災のテレビアーカイブ』(編著、法政大学出版局、2018年)

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, in order to consider social phenomena and social issues academically, we aim to form research qualities that can broadly and systematically illuminate the possibilities and issues of the media.

Learning objectives:

The goal of this course is to understand how media studies should structure problems, set research goals, and summarize what research results are in academic papers.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC600E1 - 2102 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習3

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：「メディア社会学基礎演習1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマの先行研究となる論文を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に行い、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	メディアコースおよび演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第2回	参加者の研究計画に関する報告	各自の研究計画を報告する
第3回	先行研究の収集状況に関する報告	先行研究の収集状況について報告する
第4回	先行研究の検討(1)	主要な先行研究となる論文の輪読
第5回	先行研究の検討(2)	主要な先行研究となる論文の輪読
第6回	先行研究の検討(3)	主要な先行研究となる論文の輪読
第7回	先行研究の検討(4)	主要な先行研究となる論文の輪読
第8回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第9回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第10回	先行研究の検討(5)	主要な先行研究となる論文の輪読
第11回	先行研究の検討(6)	主要な先行研究となる論文の輪読
第12回	先行研究の検討(7)	主要な先行研究となる論文の輪読
第13回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第14回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の研究テーマに即して、主要な先行研究となる論文を相談の上で選定し、輪読の対象とする。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

総合演習の準備により多くの時間を割く形に授業構成を変更しました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、オーディエンス/ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC500E1 - 2200 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論1 (メディアの歴史と思想)

小林 直毅

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近現代史上の重要な出来事の実験とその記録と記憶をめぐる身体の技術的、制度的な変容を、さまざまなメディアの歴史と思想として考察する。

【到達目標】

当面する諸現象、諸課題を、仮構的な「メディアの世界」だけに内向きに狭く閉じ込めて自己完結する「メディア研究」から脱却して、「人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディア」の歴史と思想を問い直すメディア研究の可能性と課題を考察できるようになることが、この授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テッサ・モリス＝スズキ『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』をテキストとして、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、報告とディスカッションを重ねていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	この授業の問題構成	参加者の研究テーマに即した分担報告の決定。
第3回	過去は死なない (1)	テキストの第1章前半の分担報告。
第4回	過去は死なない (2)	テキストの第1章後半の分担報告。
第5回	想像しがたい過去 (1)	テキストの第2章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第6回	想像しがたい過去 (2)	テキストの第2章後半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第7回	レンズに映る影 (1)	テキストの第3章前半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第8回	レンズに映る影 (2)	テキストの第3章後半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第9回	活動写真 (1)	テキストの第4章前半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第10回	活動写真 (2)	テキストの第4章後半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第11回	視角 (1)	テキストの第5章前半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第12回	視角 (2)	テキストの第5章後半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第13回	ランダム・アクセス・メモリー	テキストの第6章の「多メディア時代の歴史」をめぐる考察の分担報告。
第14回	"歴史への真摯さ"の政治経済学に向かって	テキスト第7章の分担報告と総括討論。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テッサ・モリス＝スズキ (田代泰子訳)『過去は死なない——メディア・記憶・歴史——』岩波現代文庫、2014年。

【参考書】

「参考文献リスト」を配布する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告と討論における達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』(世界思想社、2003年)

『テレビはどう見られてきたのか』(共編著、せりか書房、2003年)

『水俣学研究序説』(共著、藤原書店、2004年)

『水俣学講義【第2集】』(共著、日本評論社、2005年)

『テレビニュースの社会学』(共著、世界思想社、2006年)

『「水俣」の言説と表象』(編著、藤原書店、2007年)

『テレビジョン解体』(共著、慶應義塾大学出版会、2007年)

『ポピュラーTV』(共著、風塵社、2009年)

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』(共著、日外アソシエーツ、2012年)

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』(共著、ナカニシヤ出版、2013年)

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』(共著、世界思想社、2014年)

『原発震災のテレビアーカイブ』(編著、法政大学出版局、2018年)

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will be able to consider the technical and institutional transformation of the body over the experience of important events in human history and their records and memories as the history and thought of the media.

Learning objectives:

The goal of this course is to break away from "media studies" that are narrowly confined inward and self-contained, and to re-examine the history and ideas of "media as a technology and institution that enables human recognition and existence."

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC500E1 - 2201 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論2 (ニュースフレーム論)

藤田 真文

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、KHCoderという自然言語分析のツールを使い、自然言語分析の方法を解説します。その後、受講者自らが収集したニューステキストで、自然言語分析を試みてもらいます。

【到達目標】

受講生が自然言語分析の方法を理解できている。KHCoderを使いニューステキストの自然言語分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、KHCoderというツールを使った自然言語分析の方法を講義形式で解説します。その後、受講者自らが収集したテキストで、自然言語分析を試みてもらいます。毎回講義内容を理解できているか課題を出して確認していきます。自然言語分析の課題に関するレポートを計3回提出してもらいます。受講生の分析結果については、授業中にコメントをしてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進行・KHCoderについて	授業内容の説明
第2回	日本語の性質	日本語の基本構造を知る
第3回	テキストマイニングを知る	計量言語分析の原理を知る
第4回	中間課題の提示①	分析対象資料の確保
第5回	KHCoderを使ってみる①	KHCoderの基本操作を知る
第6回	KHCoderを使ってみる②	KHCoderの基本操作を知る
第7回	中間課題の提示②	計量言語分析の基本課題
第8回	中間課題の①の結果	分析結果の報告
第9回	データクレンジング	データの正規化を知る
第10回	共起ネットワークとは	共起分析の原理を知る
第11回	対応分析とは	対応分析の原理を知る
第12回	クラスター分析とは	クラスター分析の原理を知る
第13回	中間課題の②の結果	分析結果の報告
第14回	最終課題の提示	最終レポートの作成方法

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

樋口耕一・中村康則・周景龍 (2022) 『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング: フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析 KHCoder オフィシャルブック II』ナカニシヤ出版、2,420円

【参考書】

樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】』ナカニシヤ出版、3,080円
末吉美喜 (2019) 『テキストマイニング入門 ExcelとKHCoderでわかるデータ分析』オーム社、2,500円

【成績評価の方法と基準】

中間に2回各800字程度、学期末に1回2000字程度のメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を3回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート (3回) = 80% ②毎回の課題 = 20%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき授業改善アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

計量言語分析のツールとしてKHCoderを使います。Windowsは無料ですが、Macの場合は、導入費用 (3,980円) がかかります。なお、今年度KHCoderの提供方法が変更される予定です。できれば授業時間にはPCを教室に持ち込んで講義を聞いてください。

【その他の重要事項】

KHCoderの詳細な設定や使用方法については授業時間内では消化しきれない可能性があります。必ずテキストを購入してください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析

<主要研究業績>『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this class, we will explain how to perform natural language analysis using a natural language analysis tool called KHCoder. Afterwards, participants will try their hand at natural language analysis on news texts they have collected themselves.

【Learning Objectives】

The student understands the methods of natural language analysis and is able to perform natural language analysis using KHCoder.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Students are required to submit two reports of approximately 800 words each in the middle of the semester and one report of approximately 2000 words at the end of the semester analyzing media content. However, the requirement for report evaluation is that the students have submitted the assignments at least three times in class.

Overall evaluation based on (1) reports (3 times) = 80% (2) assignments at each class = 20%.

SOC500E1 - 2202 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論3 (ジャーナリズム研究)

別府 三奈子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と言論の自由の概念について、さまざまな国の具体的な事例を観察する。

【到達目標】

民主社会におけるジャーナリズムの存在意義を、昨今の具体的な調査報道の事例とメディア理論の観点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行う。テーマ概説、資料の共有、履修生のリサーチとレジュメ発表、ディスカッションを、サイクルで重ねる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ジャーナリズム・プロフェッション論の視座
第2回	テキスト解題	ジャーナリズムの定義、ジャーナリストの条件
第3回	社会問題の可視化	# me too運動とシーセッド前半
第4回	ジャーナリズムと人権	# me too運動とシーセッド後半
第5回	調査報道の原点	アリゾナケース (怒りを共有するという事)
第6回	国際調査報道の事例	ユーチューブ局 the I File ケース (メキシコ国境難民調査報道)
第7回	中間レポート	社会改良主義とジャーナリズム
第8回	国家機密と知る権利	ペンタゴン・ペーパーズ前半
第9回	内部告発と国益	ペンタゴン・ペーパーズ後半
第10回	言論の自由をめぐる攻防	スノーデンケース前半
第11回	民主社会と情報自由法	スノーデンケース後半
第12回	記者はなぜ紛争地に行くのか	光州事件・前半
第13回	市民はなぜ記者を守るのか	光州事件・後半
第14回	市民社会とジャーナリズム	レジュメ発表とディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教材の予習・復習、授業で扱う事例の事前視聴とリプライに毎週、2時間くらいを要する。

【テキスト (教科書)】

『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道のしくみ』別府三奈子ほか編著、勁草書房、2023年

【参考書】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦 —市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業内での討議内容 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

政治制度とジャーナリズムの関係について自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの購入、日々のニュース観察

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>米国のジャーナリズム思想史

<主要単著>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

【Outline (in English)】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

SOC500E1 - 2205 (社会学 / Sociology 500)

メディア特殊研究 1 (ブランド広告の意味研究)

青木 貞茂

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえ明らかにする。

【到達目標】

現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明らかにし、ともに情報の意味についての考察を深めていく。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第2回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第3回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第4回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第5回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第6回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する手法
第7回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第8回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第9回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第10回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第11回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第12回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第13回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第14回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要と授業全体でのまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間2時間、復習時間2時間、1回につき計4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

青木貞茂『文化の力』(NTT出版、2008年)

【参考書】

津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロバガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)
佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)
他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(70%)、課題レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】

理論についての理解を深めるため、より詳細な説明を行なうことを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>広告論、ブランド論

<研究テーマ>文化と広告、ブランド、マーケティング

<研究業績>単著『文脈創造のマーケティング』(日本経済新聞社、1994年)、『文化の力』(NTT出版、2008年)

共著『記号化社会の消費』(ホルト・サウンダース・ジャパン、1985年)、『広告の記号論』(日経広告研究所、1987年)、『文化の消費が始まった』(日本経済新聞社、1989年)、『広報・広告・プロバガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)、『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)

共訳書としてレイモア『隠された神話』(日経広告研究所、1985年)

【Outline (in English)】

In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.

In today's society, brands are entities of such great significance and value that they cannot be ignored in our daily lives. Using methods such as structuralism and semiotics, the aim of this course is to be able to analyze and understand the structure and meaning of advertising information, what creates a brand, and how it works and influences us. Students will take an active interest in, and gather information about, brands and their advertising communication in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard duration of this course is two hours of preparation and two hours of review, for a total of four hours per session. Evaluation is based on ordinary points (70%) and assignment reports (30%).

SOC500E1 - 2206 (社会学 / Sociology 500)

メディア特殊研究2 (コラボレーションの情報学)

森 幹彦

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目では、メディアを通じた人々の協同活動すなわちコラボレーションを情報学の視点から考える。

【到達目標】

情報システムを通じた双方向的コミュニケーションによる協同活動についての視点を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、協同活動におけるメディアとコミュニケーションの役割りや、情報システムの位置づけについて学ぶ。その後、学生ごとに先端的な事例研究を調査して報告しながら理解を深める。事例研究として文献講読を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方を説明する。
第2回	コミュニケーションとメディア	情報学の観点からコミュニケーションとメディアの関係について考える。
第3回	コミュニケーションのモデルと分析	情報コミュニケーションにおけるモデル化と分析法について学ぶ。
第4回	情報と知識	情報と知識について学ぶ。
第5回	情報共有	情報を共有する意義と方法について考える。
第6回	共同作業支援	共同作業のコンピュータ支援について学ぶ。
第7回	協同学習支援	協同学習のコンピュータ支援について学ぶ。
第8回	中間討議	コラボレーションに対する情報学的視点について総合的に議論する。
第9回	研究事例(1)	コラボレーションについての研究事例を調査し報告する。
第10回	研究事例(2)	コラボレーションについての研究事例を調査し報告する。
第11回	研究事例(3)	コラボレーションについての研究事例を調査し報告する。
第12回	研究事例(4)	コラボレーションについての研究事例を調査し報告する。
第13回	研究事例(5)	コラボレーションについての研究事例を調査し報告する。
第14回	まとめ	振り返りとまとめをする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回までの内容が理解できた前提で授業を進めていく。理解できるまで復習して授業に臨まなければならない。研究事例の報告のための文献調査や資料作成は時間外に行わなければならない。

【テキスト (教科書)】

適宜資料の配布と提示を行う。研究事例については受講生と相談のうえ決定する。

【参考書】

参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

質疑への積極的な参加と、研究事例の報告などの内容を総合的に判断する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

研究事例の報告や学習支援システムの利用を行うためのPCを各自で用意する必要がある。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず初回授業に出席し、ガイダンスを受けなければならない。質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 知能情報学、教育工学

<研究テーマ> 知的ユーザインタフェース、教育学習支援システム

<主要研究業績> 法政大学学術研究データベースをご確認ください。

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/103/0010211/profile.html>

html

【Outline (in English)】

This course discusses the cooperative activities of people through media, i.e., collaboration, from the viewpoint of informatics.

Students acquire a perspective on collaborative activities through interactive communication via information systems.

This course progresses on the premise that students have reviewed the previous contents until they understand the contents before the next class. Students are required to conduct literature research and prepare materials for the presentation outside of class hours.

Engaging in discussions and reporting will be judged comprehensively (100%).

SOC500E1 - 2209 (社会学 / Sociology 500)

メディア社会学特殊研究 1 (知的財産権法)

白田 秀彰

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

知的財産権法の入門講義である。情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

対面が可能な場合は対面で行うが、感染症その他の状況により、オンデマンドによる対面講義とはほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroom のクラスコードは echh2mu である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課小論文の合算点によって行う(100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。

指示がない限り人工知能等により生成した文章を用いてはならない。生成文を使用した答案については0点として処理する。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピー)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関する連絡は、すべてGoogle Classroom 上で行う。

受講生は、下記のURLに必ず登録しておく必要がある。

<https://classroom.google.com/c/NjU0Njc2ODUyMTI3?cjc=echh2mu>

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/103/0010211/profile.html>

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

SOC500E1 - 2216 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習 1

山口 仁

備考 (履修条件等)：旧カリ「調査報道実習 1」

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学術的なメディア研究 (特に報道分析) に向けた実践的演習を行う。受講生は学術的な報道分析の手法を習得し、研究成果 (例えば、修士論文、博士論文、学会発表、投稿論文) として完成させることを目的とする。

【到達目標】

実際に報道分析を行っている学術論文や学術書をレビューしながら、その手法を具体的に学んでいく。その上で受講生は具体的事例を自ら設定し、それに関する報道の分析を繰り返し演習として行っていく。そして研究報告や論文執筆が出来るようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式を採用する。具体的には学術論文・学術書の輪読・報告、課題の事例分析の発表・講評を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報道分析とは何か	現在のメディア・ジャーナリズム研究において具体的に報道を分析する意義について講義をする。「理論を用いて事例を解釈するのか」、「事例の分析を通じて理論を説明するのか」を分けて考えることの重要性について解説する。
第2回	報道分析に関する先行研究レビュー① (輪読)	報道分析に関する学術論文 (学術書) の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。
第3回	報道分析に関する先行研究レビュー② (講義・輪読)	報道分析に関する学術論文 (学術書) の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。できれば、「問題ある」報道分析についても明らかにしていきたい。
第4回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション①	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第5回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション②	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第6回	各自の分析報告①	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第7回	各自の分析報告②	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第8回	各自の分析報告③	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第9回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する①	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第10回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する②	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第11回	担当教員による報道分析の解説 (演習)	担当教員が実際に行ってきた、もしくは行っている報道分析について自己反省的に解説する。
第12回	報道分析を研究発表するための実習①	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第13回	報道分析を研究発表するための実習②	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第14回	報道分析を研究発表するための実習③、まとめとふりかえり。	半年間の授業を振り返り、自らの研究へと反映させていく。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題論文・図書の輪読用資料を作成する。報告のための準備をする。講評・コメントを自身の研究に反映する。授業1回あたりの準備時間と復習時間はそれぞれ2時間 (計4時間) を基準とする。

【テキスト (教科書)】

指定の教科書は無い。

【参考書】

山口仁 (2018) 『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房、4500円 (税別)
 山腰修三編 (2022) 『対立と分断の中のメディア政治』慶應義塾大学出版会、3200円 (税別)
 …担当者が行った報道分析をまとめた著書・編著。

【成績評価の方法と基準】

報告や発表などの平常点 (50%) と期末レポート (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究の進捗状況を把握したうえで、実習を行っていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読や分析報告の形式は自由ですが、パワーポイントなどのスライドでも紙媒体のレジュメ形式でも対応できることが望ましいです。

【その他の重要事項】

兼任講師なので特定の時間のオフィスアワーはありません。受講生にはメールアドレスをお伝えしますのでそちらに連絡するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ジャーナリズム論、マス・コミュニケーション論
 <研究テーマ>ジャーナリズムに関する社会構築主義的研究
 <主要研究業績>『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実 (2018年・勁草書房)』

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire skills in academic news analysis. The goals of this course are to analyze news articles and write a academic report. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

SOC500E1 - 2217 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習2

北原 利行

備考(履修条件等)：旧カリ「調査報道実習2」

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

あらゆるメディアを通して我々は日々膨大な情報に接しているが、その中で利用できる情報はごくわずかである。そしてその情報もフェイクニュースや炎上、あるいは名誉毀損、誹謗中傷などさまざまな問題が指摘されて。しかしこれはインターネット固有の問題ではなく、マスメディアを中心とした伝統的なメディアが主流だった頃から存在しており、インターネットはそれが過剰なまでに顕在化したに過ぎないとも考えられる。メディア自体にはそのメディア固有な部分と、他のメディアにも普遍的な部分が存在する。一つのメディアにだけ関心に向けるのではなく、多くのメディアを比較研究することでその固有な部分と普遍的な部分が現れてくるのだ。

人々の情報摂取行動は時代とともにインターネットに移行しており、マスメディアの地位は相対的に低下し、インターネットのSNSやさまざまなメディア、サービスが興隆・支配しているようにも見える。その一方でニュースの提供者はマスメディアの報道機関が主流を占めており、放送や映画からさまざまな映像コンテンツが提供されている。従来のメディアごとに独立したアプローチでメディア、コミュニケーション上のさまざまな事象を捉えることが困難になっているのである。さらにはインターネットによって従来の垂直統合型のメディア構造が解体され、インターネットという一つのプラットフォームでアクセスできるようになったことでメディアの概念が変わってしまい、旧来のメディアの概念が流動的になり、コンテンツそのものがメディアとして捉えられるようになってきている。同時に発信者、受信者は相対化し固定化した明確な区分もなくなりつつある。従来のメディア、インターネットを比較研究することで、メディア、コミュニケーションの社会的機能を捉え直し、それを支えるビジネス構造的な視点も含めて、メディアやコミュニケーション、さらにはコンテンツのあり方について考察し、現代社会におけるそれらの上で起きているさまざまなコミュニケーション上の諸問題への分析手法、解決の方策について論じる。特にマスメディアとソーシャルメディアの関係について双方の立場から比較して論じることができるクリティカルな視点の獲得を目指す。

【到達目標】

メディア、コミュニケーションについての基礎的な理論の習得。メディア、コミュニケーションの全体像の俯瞰、個々のメディアの構造比較のために多種・多様なメディアについての俯瞰や理解、インターネット上のコミュニケーション、ソーシャルメディアなどについての理解、消費者・生活者の情報摂取行動についての基礎的な知識の習得を最初に講義形式で行う上でマスメディア、インターネット上でのコミュニケーションなどの現状におけるさまざまな諸問題についての調査・分析力の習得および課題解決のための論理的構築できるスキルを習得する。必要に応じて具体的な調査手法や調査実践などについてもとりあげる。また、プレゼンテーションスキルの向上も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習形式で行う。

講義については、レジュメを配布し、内容に沿って説明し、受講者に対して問題提起し、リアクションについての議論を行うことで、インタラクティブな形式で進行させる。講義が終了した後に復習もかねてリアクションペーパー的な課題を課する予定。

受講者の問題意識をもとに、課題解決のための演習形式を取り入れて、受講者との間でのディスカッションを行い、課題解決のための思考を深めスキルの向上を図る。

授業内容については、受講者の関心領域などに対して柔軟に対応するので、下記の授業計画からの変更の可能性もある。

アクティブラーニングに関しては、途中に設ける予定。

授業形式については対面講義を基本とするブレンド授業形式またはハイフレックス授業形式を想定しているが、受講者の要望、社会環境の変化などに柔軟に対応する。便宜的に講義形式は対面としてあるが、受講生と相談の上形式を決定する。

第一回目の講義に関しては学生の対面参加での可否を確認するためにオンラインで実施する。その結果をもとに二回目以降の講義の仕方について対応を検討する。

課題等に関しては適宜必要に応じて実施するが、フィードバックに関しては講義内もしくは学習システムを通して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講者の問題関心の確認 メディア、コミュニケーションについての全体像の俯瞰、基礎理論の確認

第2回	メディア論	メディア論の基礎、マスメディア論について
第3回	コミュニケーション論①	コミュニケーション論の基礎、多種多様なコミュニケーションの形態について
第4回	コミュニケーション論②	インターネットを中心としたコミュニケーションの解析
第5回	新聞	新聞産業の構造、新聞の受容、ジャーナリズムなどの諸問題について
第6回	テレビ・ラジオ	テレビ・ラジオ産業の構造、テレビの受容、視聴率などの諸問題について
第7回	出版	出版産業の構造、書籍・雑誌の受容、電子出版などの諸問題について
第8回	映画・アニメ、その他	映画産業、アニメ産業の構造、その受容、その他メディアなどの諸問題について
第9回	インターネット	インターネットの構造、消費者の情報摂取行動、コミュニケーションの諸相
第10回	インターネットサービス、コンテンツ	インターネット上のメディア、サービスを他のメディアとの対比で分析する。インターネット上での諸問題の検討。
第11回	ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの現状、多のメディア、コミュニケーションとの関係性
第12回	コンテンツ	音楽、ゲームなど上記メディアでは捉えきれなかった部分について
第13回	演習	受講者の問題意識にそって演習形式で課題の検討を行う。
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

積極的に、新聞やテレビなどの多くのメディアに幅広く意識的に接触すること。インターネット上のサービス等についても積極的に把握する。特にSNSの活用を通じて現状の諸問題についての理解を深めておくこと。講義内容に沿って生じた疑問などを参考書などを中心に予習・復習する。日常より問題意識を持って、メディア、コミュニケーション上の諸問題について批判的に捉えることで受講者自身が設定した演習課題についての考察を深める。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。準備よりも復習に重点を置くこと。

【テキスト(教科書)】

指定した教科書は使用しない。講義の都度レジュメ、資料等を配布する。

【参考書】

吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』(有斐閣、佐藤卓己『メディア社会—現代を読み解く視点』(岩波書店)、M. マクルーハン『メディア論』(みすず書房)、L. レッティング『REMIX』(翔泳社)、電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』(ダイヤモンド社)など。講義内でも関連参考書について紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(講義、課題への参加度)	60%
期末レポート	40%

【学生の意見等からの気づき】

アニメーション市場関連などエンターテインメント市場についての要望が多い。また既存のメディアとソーシャルメディアの関係についての関心が高い。また、マスメディアについての現状の整理についても一定のニーズが存在している。

【学生が準備すべき機器他】

諸連絡、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

電通総研、電通コミュニケーションラボにおいて、マスメディア、コミュニケーションについてのリサーチ、コンサルティングなどに従事。それらの経験に基づいて、多角的・俯瞰的に講義を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア、コミュニケーション、広告

<研究テーマ>

マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷

<主要研究業績>

「経営リポート】問い直す新聞とデジタルの価値——「2022年日本の広告費」を読み解く」、2023年4月、新聞研究
{地方紙が地域課題解決の核にカギは当事者報道にあり}、2017年7月、朝日新聞 Journalism

「2018広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」(共著)、2017年12月、日経広告研究所
「情報メディア白書」(共著)、2007年～、ダイヤモンド社

[Outline (in English)]

We are exposed to a vast amount of information every day through all kinds of media, but very little of it is available to us. And even this information is subject to various problems such as fake news, flaming, defamation, slander, and so on. However, this is not a problem unique to the Internet. It has existed since the days when traditional media, mainly mass media, were mainstream, and the Internet has merely brought it to the surface to an excessive degree. The media itself has parts that are specific to that media and parts that are universal to other media. By conducting comparative research on many media, rather than focusing attention on one media only, we can discover the unique and universal aspects of each media.

People's information intake behavior has shifted to the Internet over time, and the position of mass media seems to have declined relatively, with the rise and dominance of Internet SNS and various other media and services. On the other hand, mass media outlets continue to be the main providers of news, and a variety of visual content is provided by broadcasting and film. It has become difficult to capture various media and communication events with the traditional independent approach of each individual media outlet. Furthermore, the Internet has dismantled the traditional vertically integrated media structure, and the concept of media has changed as it can now be accessed through a single platform, the Internet. The old concept of media has become fluid, and content itself is now considered as media. At the same time, senders and receivers are becoming more relative and there is no longer a fixed and clear division between them. Through comparative research of conventional media and the Internet, we will reconsider the social functions of media and communication, and examine the state of media, communication, and content, including the business structural perspectives that support them. The Lecture will discuss methods of analysis and solutions to the various communication problems occurring on these media in today's society. In particular, we aim to acquire a critical perspective that enables us to compare and discuss the relationship between mass media and social media from both perspectives.

SOC500E1 - 2218 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習3

高瀬 文人

備考(履修条件等)：旧カリ「取材文章実習」

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ジャーナリズムのコンテンツ、ことに取材文章は「事実に基づいた思考とその表現」と言い表すことができる。ある事象についての問題意識を持ち、事実を集め、評価し、導き出される論理を展開し、適切に表現する方法は、ジャーナリズムや学問に限らず全ての思考の基本であり、その重要性はますます高まっている。この授業では、ジャーナリズムの基本的な論理構成や表現方法を学び、自分の思考法と関連づけて身につける。

【到達目標】

- ・問題を発見し、問題意識を立てる方法を身につける。
- ・取材文章がどのような構造で作られているかを分析し、理解できる。
- ・新聞、雑誌、書籍、ウェブなどの媒体ごとに異なる、文章の特徴を理解できる。
- ・問題意識、事実の見かた、収集と整理、論理の展開と論証の基本的な技術を身につける。
- ・事実の確認と評価の方法を理解できる。
- ・インタビューをはじめとする取材方法を学ぶ。
- ・学んだ方法論をもとに、事実を知らせる文章を書く。
- ・学んだ方法論をもとに、複数の事実から新しい価値を生み出す文章を書く。
- ・他者が書いた文章を読解し、校正し、向上のための方針を立てる。
- ・媒体に合わせた発信方法を考え、文章を書き、仕上げる。
- ・取材者・表現者としての自らとメディア、そして社会との関わり合いについて考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況、また授業の内容によって、オンラインを併用することも考えられる。その都度、学生と打ち合わせの上決定したい。

「書く」ことで思考を深める授業の特性上、全体を通じて時間内に、あるいは課題として短い作文、あるいは取材に関連する簡単な作業を課し、それについての討論・添削を予定している。

授業は基本的に討論形式とし、講師と受講者、または受講者同士の討論を活発化することで気づきや深まりを期待する。

また、日本語文法などの短いレクチャーを適宜行い、より文章のスキルを高められるように授業を設計する。

受講生の関心などを考慮し、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ジャーナリズムの発想とその思考法	ジャーナリズムとは何なのか。その原初的動機から、メディアの記事として作り上げ、それが社会に影響を与えるまでを概観する。
第2回	取材・整理・執筆プロセスとそれぞれの論理構造	事実の収集、その整理、文章表現によって完成される記事の制作プロセスは一貫して論理によって考える場である。その操作を考え、実習する。
第3回	「ニュースバリュー」と「キャンペーン」——社会を動かすメカニズム	記事を発表し、それが社会を動かすメカニズムは、報道が社会を動かす構造を知る。
第4回	表現方法と伝達手段の変化——ネットメディアの勃興とレガシーメディアの変容	ネットはニュースの伝わり方を変えたのみならず、ニュースそのものを変えたと言える。その構造を分析する。
第5回	誤報と「フェイクニュース」の差異と、その攻防	社会や国同士で分断が進んでいる。フェイクニュースはそれを助長するために仕掛けられることがある。その構造を分析する。
第6回	取材文章思考①テーマとリサーチ	取材の出発点である「発想」、方向性を決めるための情報収集である「リサーチ」はどのようにしたらよいか、どんな手段があるか。簡単な実践をしながらそれらの「方法」を身につける。

第7回	取材文章思考②取材と情報整理	「取材」とは何をするのか。取材文章思考①での準備を踏まえて取材計画をどのように立て、実行するかを、「取材執筆実習」の回に向けて計画する。取材をどのように記録し、情報を整理するかを学ぶ。簡単なワークショップを行う予定。
第8回	取材文章思考③伝えるための文章の構造・執筆のルール	取材で得、整理した事実を組み立て、執筆の方向性を決め、執筆にかかる。その論理の組み立てと、文章の基本について、簡単なワークショップを行う予定。
第9回	取材執筆実習①取材・インタビューの実際	実際にインタビューを行う実習回。
第10回	取材執筆実習②情報整理と執筆の実際	取材で得た情報を整理し、筋書きにまとめ、執筆する作業を行う。授業時間内に終えることができない場合は、課外の時間を使って仕上げることも想定される。
第11回	取材執筆実習③中間まとめと発表	第9回で取材した文章をいったんまとめて発表し、受講者相互・講師によって不足している観点や取材などをチェックし、完成に向けて進める。
第12回	取材執筆実習④発信を踏まえた編集実習	受講生は、他の受講生が仕上げた原稿を、編集者の立場になって読み、校正し、よりよい内容になるよう添削・アドバイスする。受講生はそのアドバイスに従い、自らの原稿をさらにブラッシュアップする。
第13回	取材執筆実習⑤原稿の完成・発表	完成した原稿を発表、受講生と講師によって合評する。新聞、雑誌、放送、ネットなど、媒体によって適した文章の書き方がある。自分の記事をそれぞれの媒体で発信することを考えて、バリエーションを作ってみる。
第14回	媒体に合わせた文章表現、取材スキルとジャーナリズム、そして社会との関係	講義全体を通して得たスキルを振り返り、受講生自身の、これからのもの見方、考え方、表現のしかたにどう影響したかを考える。それを踏まえ、ジャーナリズムの社会における役割、さらに表現者としての自らのあり方について考えを進める。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前の準備は特に必要としないが、ネットの報道のみならず、新聞・雑誌などオールドメディアの報道に慣れておくとよい。

簡単な調査や短い執筆をとまなう宿題が4-5回程度出される予定。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。実習で使用する参考書は適宜案内するが、必ずしも購入する必要はない。

【参考書】

『校正記号の使い方』『原稿編集ルールブック』(ともに日本エディタースクール)、『(新版)日本語の作文技術』(本多勝一著、朝日文庫)『大人のための国語ゼミ』(野矢茂樹著、山川出版社)『報道記者のための取材基礎ハンドブック』(西村隆次著、リーダーズノート)

【成績評価の方法と基準】

到達目標へのプロセスにおける論理立てや思考の深まりを実践し、学生にその方法を自分のものとすることを重視している。そこで、授業における発言などの積極的な貢献度(50%)も高く評価する。討論などで貢献のある学生にはさらに加点していく。

取材文章の評価(50%)は講義を通しての成果物である。文章の評価は、文章の完成度とともに、問題設定や情報収集の方法や思考プロセスとその過程、さらに表現に意を払っているかに重点を置いている。

【学生の意見等からの気づき】

文法など文章テクニクの短い講義・実習を織り込むことなどで、授業の目的である「問題意識の立て方」「事実の見かた・評価のしかた」「論理展開」について、受講生は一定のレベルに達することができた。今回は、受講生のそれまでの能力を判定し、そこに立脚してさらに実力を高める工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、タブレット、PCなど、ネットに接続できる機器があるとよい。

【その他の重要事項】

教員は現役の記者、ノンフィクションライター、雑誌・書籍編集者、校正者として幅広い領域で活動しており、いま現在の実例を用いて、多様な観点をふまえて受講者と討論しながら取材文章に必要な思考と技術を学べるよう授業を設計している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として執筆・編集業務全般にわたり携わる。

<研究テーマ>
調査報道の現代的あり方、リサーチ教育

<主要研究業績>

『リーガル・リサーチ』2003年、日本評論社

『ひと目でわかる六法入門 第2版』2018年、三省堂

『鉄道技術者 白井昭』2012年、平凡社

[Outline (in English)]

[Course outline]

Story in Journalism can be expressed as "It was thought based on the fact and its expression." The way to gather facts, evaluate the derived conclusions and express them properly is fundamental not only for journalism and academic things but also for all ideas, its importance is increasing more and more I will.

[Learning Objectives]

In this classroom, you will master the sentences of journalism (writing interviews) linked with your own way of thinking.

It aims at "learning skills".

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Article writing: 50%、in class contribution: 50%

SOC500E1 - 0300 (社会学 / Sociology 500)

学際研究 1 (歴史学の方法)

慎 蒼宇

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、歴史学の立場から学問として歴史を捉える方法について、現在の興味深い研究を素材に学んでいこうと思う。歴史学は理論と離れたものではないが、その独自の任務は実証によって問題に向かい、過去の事象を把握しえた根拠を明示することにある。その範囲は限られたものではあるが、それらを学ぶことで「歴史的思考」を豊かにするきっかけをつくることができると考えている。対象は東アジア近現代史を中心に、近年の研究を中心に「歴史学の現在」に接近を試みたい

【到達目標】

東アジア近現代史を中心に、近年の歴史研究に触れることで、歴史学の問題意識や方法に対する理解を深め、各自の研究テーマに対し、大状況と小状況、支配と被支配の権力関係、歴史の連続と断絶、といったダイナミックな思考を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が基本になる。テキストについては最初の講義で決定する。テキストは全員読み、担当者はレジュメを作成して報告し、受講生で議論する。受講生の状況に応じて輪読の方法を決める。なお、本授業は、Zoomを使用してオンラインで実施する。毎回質疑応答の時間を多く設け、講義内容の理解を促進するためのコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方 / 文献の選定など
第2回	方法から考える①	歴史学の基礎についての概論
第3回	方法から考える②	戦後歴史学の特徴について考える
第4回	方法から考える③	現代歴史学の成果と課題
第5回	方法から考える④	史料論から考える
第6回	東アジアと日本①	講読と討議
第7回	東アジアと日本②	講読と討議
第8回	東アジアと日本③	講読と討議
第9回	近年の特集を読む①	講読と討議
第10回	近年の特集を読む②	講読と討議
第11回	近年の特集を読む③	講読と討議
第12回	アクチュアルな課題①	講読と討議
第13回	アクチュアルな課題②	講読と討議
第14回	まとめ	総合討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

決められたテキストは必ず全員読むことが必須。報告者は報告レジュメを作成すること。テキストが決まったら、関連した参考図書も第2回目に提示するので読むことを薦める。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

初回に打ち合わせを行い決定する。

【参考書】

講義のなかで適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

報告レポート (50%)、出席や講義での討論などの参加度 (50%) で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

We learn with the present interesting study as a material about the way to catch history as learning from the viewpoint of historical science.

(Learning Objectives)

EastAsiacontemporaryhistory

(Learning activities outside of classroom)

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points 50 %

Reports: 50 %、

SOC500E1 - 0301 (社会学 / Sociology 500)

学際研究2 (場の質的心理学)

土倉 英志

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人の認知や行為はつねにどこかの「場」で生じている。人を理解するにあたり、心理学は一般的に、心を場から切り離す。心に迫るにあたり、場との関連をとどめたまま理解することはできないだろうか。本講義では、特に質的心理学の立場から、インタビューや観察を用いた研究に取り組みながら、このテーマを模索する。

【到達目標】

- ・ 質的データの分析に関する基本的な考えかたを身につける
- ・ 質的研究のプロセスを見とおせるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ 授業はグループワークとディスカッションを中心に進める。
- ・ フィールドワーク、インタビュー、データの書き起こしは授業時間外に実施する。
- ・ 最終的に研究成果をまとめたプレゼンを行なう。
- ・ 提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	調査テーマの説明
2	調査テーマの説明	調査テーマの説明と議論
3	RQの説明	リサーチクエスションの確認と再検討
4	調査項目の設定 (1)	調査項目の確認
5	調査項目の設定 (2)	調査項目の再検討
6	研究手法の説明	調査の練習
7	分析手続きの説明	質的データの分析の説明
8	トランスクリプトの説明	トランスクリプトの作成方法の説明
9	データの分析 (1)	グループでデータを分析する
10	データの分析 (2)	グループでデータを分析する
11	データの分析 (3)	グループでデータを分析する
12	プレゼンの作成	研究成果の報告資料を作成する
13	プレゼンテーション	研究成果を報告し、討論する
14	まとめ	プレゼンの修正、まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・ 授業時間外にも様々な活動に取り組むことが必要になります。たとえば、指定の文献を読む、調査に出かける、インタビューの書き起こしを行なう、データの整理を行なう、研究成果の報告資料を作成する、といったことです。
- ・ 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・ 特になし

【参考書】

- ・ 適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 授業内外で課される課題 (調査含む) への取り組み (70%) と最終プレゼンの完成度 (30%) によって評価する。
- ・ 指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・ 詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 授業時間を有効に利用するために、授業外の課題も取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ 学習支援システムを利用する。
- ・ PCを使って作業を進める。Excelも利用する。

【その他の重要事項】

- ・ 調査にかかる交通費は原則、自己負担となります。
- ・ 授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会心理学、認知科学、質的心理学
 <研究テーマ> 創造性、経験/創造による学習、コミュニティデザイン
 <主要研究業績> 教員のウェブサイトを参照してください
<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010660/profile.html>

【Outline (in English)】

In this course, students learn qualitative methodologies for investigating cognition and action in the real world, not in the laboratory. In particular, we focus on the interview and observation method. The goal of this course is to obtain basic knowledge of qualitative approaches in psychology. Students conduct field research, interview informants, transcribe interview data, analyze transcripts, and report research outcomes. The goals of this course are to acquire basic knowledge of interviewing, to develop basic skills in analyzing qualitative data, and to understand the process of qualitative research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation (30%), and in-class contribution (70%).

SOC500E1 - 0302 (社会学 / Sociology 500)

学際研究3 (未定)

李 舜志

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、「私たち」がどのように形成・解体されていくか、主に技術に焦点を当てて考察する。
 テーマの具体例を挙げると、アルファベット、印刷革命、映画、インターネット、ブロックチェーンなどと、公共性、ナショナリズム、ポピュリズム、分散自律型組織などとの関連である。

【到達目標】

ひろく「社会」について研究するにあたって、技術がもたらす影響について理解する。また、生成AIやWeb3.0、メタバースといった流行の現象に対して、過大/過少評価することなく、そのインパクトを見定めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前に提供された資料を購読し、意見を交換する。また、講義のテーマに合わせて自身の研究について発表する機会も設ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の導入を行う。
第2回	技術は「私たち」にどのような影響を与えるか	メディア論をベースに、技術が「私たち」にもたらす影響について分析する。
第3回	アルファベットと「私たち」	アルファベットの発明が「私たち」にもたらした影響について、公共性に焦点を当てて分析する。
第4回	印刷革命と「私たち」	印刷革命が「私たち」にもたらした影響について、ナショナリズムに焦点を当てて分析する。
第5回	学生による発表①	学生の研究発表を行う。
第6回	ラジオと「私たち」	ラジオが「私たち」にもたらした影響について、ファシズムに焦点を当てて分析する。
第7回	テレビと「私たち」	テレビが「私たち」にもたらした影響について、マスメディア・パラダイムの文脈に沿って分析する。
第8回	SNSと「私たち」	SNS、ひいてはWeb2.0が「私たち」にもたらした影響について、ポスト・トゥルースに焦点を当てて分析する。
第9回	学生による発表②	学生の研究発表を行う。
第10回	多元性の社会学①	オードリー・タンらが構想する多元性 (Plurality) の社会学について分析する。
第11回	多元性の社会学②	オードリー・タンらが構想する多元性 (Plurality) の社会学について分析する。
第12回	多元性の社会学③	オードリー・タンらが構想する多元性 (Plurality) の社会学について分析する。
第13回	学生による発表③	学生の研究発表を行う。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：40パーセント

発表：60パーセント

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 技術哲学、教育哲学

<研究テーマ> 技術による人間形成

<主要研究業績> 『ベルナル・スティグレールの哲学 人新世の技術論』、法政大学出版局、2024年。

【Outline (in English)】

This class will examine how "we" are being formed and dismantled, focusing primarily on technology.

Examples of themes include the alphabet, the printing revolution, cinema, the Internet, and the blockchain in relation to publics, nationalism, populism, and decentralized autonomous organizations.

In researching "society" broadly, we will understand the impact of technology. The goal is to assess the impact of trendy phenomena such as generative AI, Web 3.0, and the metaverse, without overestimating or underestimating their impact.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria are as follows:

Ordinary marks: 40 percent

Presentations: 60 percent

SOC500E1 - 0305 (社会学 / Sociology 500)

社会科学研究法 1

大崎 雄二

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

原則として日本国外の大学を卒業した日本語を第一言語としない外国人留学生を対象とする。

社会科学、社会学の基礎概念を再確認しながら、修士課程における学びの基軸、必要不可欠なアカデミック・リテラシーを具体的に確認し、習熟していく。

【到達目標】

情報・文献検索の方法、データ分析の基本、小論文作成の方法、プレゼンテーションの方法等を確認し、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が支障なくできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生参加型のインタラクティブな演習の形態とする。

教員からの問題提起と課題に対し、学生が質問、回答しながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。課題等に対しての講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。

授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アイス・ブレイキング	役割分担決定等
2	情報の整理と要約 (1)	論文の要約 ① キーワード、キープ レーズ
3	情報の整理と要約 (2)	論文の要約 ② 要約のポイント
4	プレゼンテーション (1)	レジュメ作成のポイント ① 形式
5	プレゼンテーション (2)	レジュメ作成のポイント ② 内容
6	プレゼンテーション (3)	スライド作成のポイント
7	プレゼンテーション (4)	効果的な発表、相互批評・検討
8	情報、文献の検索と収集 (1)	データベースの活用
9	情報、文献の検索と収集 (2)	付加情報と脚註
10	情報、文献の検索と収集 (3)	関連文献検索、参考文献一覧作成
11	データ分析の基本 (1)	データ収集、処理の基礎
12	データ分析の基本 (2)	データ分析の基礎
13	小論文の作成 (1)	構想の発表と議論 ① 発表
14	小論文の作成 (2)	構想の発表と議論 ② 議論と修正

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

参加者と相談してから決める。

【参考書】

授業内でテーマごとに複数紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

参加35% + 課題65%で評価したい。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。

従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピュータを使った実習をおこなう際には事前に通知し、支障のないようにする。

【担当教員の専門分野等】

現代中国 (東アジア) 地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences and sociology. It also enhances the development of foreign students' skill in making literal and oral presentation and self-regulated learning. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60%) and in-class contribution (40%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (英語)

堀川 三郎

備考(履修条件等)：学部「外書講読(社会学) 2 A」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業のキーワードは「1960年代」と「女性」です。このふたつのキーワードを、二人の女性の成し遂げたことの検討を通じて考えてみることで——これがこの授業の目的です。

取り上げる一人目は、アメリカの都市思想家ジェイン・ジェイコブス(Jane Jacobs, 1916-2006)です。彼女は「現代都市に必要なのは高速道路か、人間味のある界隈か」と鋭く問いかけ、「アメリカ大都市の死と生」を出版しました。同書は都市計画思想を根本から書き換えてしまうようなパラダイム・シフトの起点をつくりました。二人目は、環境問題への向き合い方を不可逆的に変えてしまったナチュラリストで科学者のレイチェル・カーソン(Rachel Carson, 1907-1964)です。彼女の著した『沈黙の春』は大論争を巻き起こし、今日の環境政策の基礎を作ったといつてもよいものです。

そこでこの授業では、英文でジェイコブスとカーソンの生涯と業績を概観し、それがいかに1950年代の「因習」を打ち砕く「1960年代」をもたらしたのか、「女性」の地位をどのように変えたのかについて検討することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 英語読解力の向上
- (2) アメリカにおける「1960年代」「女性」をめぐる研究トレンドの内容を把握すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回授業では、リーディングとその中身に関するディスカッションを行い、課題部分の内容把握に加えて、より深い意味理解を目指します。単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。

まず最初に概説的な文献を読んで、後の英文解釈に必要な基礎知識を習得します。その上でジェイコブスやカーソンについての英語文献の重要な箇所を選んで読み、受講生全員で議論をします。担当教員は、そこにある英文を論理的に読み解くためのコツを解説します。このように初学者でも分かりやすく、段階を踏んで内容をしっかり理解できるような授業を目指します。最終的には、英文を自分で読み解いていく「方法」を習得し、主題をめぐって討論できるようになることを目指します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概略説明と教材についての説明
2	文献講読 [1]	アメリカの1950年代 (1)
3	文献講読 [2]	アメリカの1950年代 (2)
4	文献講読 [3]	1960年代と女性というテーマ設定
5	文献講読 [4]	J. ジェイコブスとは誰か (1)
6	文献講読 [5]	J. ジェイコブスとは誰か (2)
7	文献講読 [6]	J. ジェイコブスとは誰か (3)
8	文献講読 [7]	R. カーソンとは誰か (1)
9	文献講読 [8]	R. カーソンとは誰か (2)
10	文献講読 [9]	R. カーソンとは誰か (3)
11	文献講読 [10]	1960年代の終盤とは
12	文献講読 [11]	1970年代と女性
13	文献講読 [12]	ジェイコブス、カーソン、そして「姉妹たち」
14	春学期のまとめ	全体討論

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業終了時に指示する次の授業で読む予定の箇所を予習しておくこと。あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

適宜プリントを配布します。学生諸君がテキストを購入する必要はありません。

具体的なテキストは、受講者の関心とレベルにあわせて決定しますが、今のところ、下記の文献の一部を抜粋して読む予定です：

- [1] Golin, Steve (2022) *Women Who Invented the Sixties: Ella Baker, Jane Jacobs, Rachel Carson, and Betty Friedan*. Jackson, MS: University Press of Mississippi.
- [2] Faust, Drew Gilpin (2023) *Necessary Trouble: Growing up at Midcentury*. New York, NY: Farrar, Straus and Giroux.

【参考書】

授業中に適宜指定します。基礎知識習得のための日本語文献は、以下のとおりです：

- [1] レイチェル・カーソン [著]・青樹繁一 [訳] (1974) 『沈黙の春：生と死の妙薬』(新潮文庫カ-4-1)、東京：新潮社。
- [2] ジェイン・ジェイコブス [著]・山形浩生 [訳] (2010) 『アメリカ大都市の死と生』、東京：鹿島出版会。

【成績評価の方法と基準】

予習の成果とディスカッション(100%)で評価します

【学生の意見等からの気づき】

適宜、授業運営について受講者と話し合う

【その他の重要事項】

初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。なお、この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学、日米比較社会学

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』(東京大学出版会、2018年)、*Why Place Matters* (Springer, 2021) など

【Outline (in English)】

This class is about “1960s” and “women.” It addresses two questions: How was the sixties “invented” and how women protested against the *status quo* of the fifties? To answer these questions, we will focus on two extraordinary women and their accomplishments. The first one is Jane Jacobs (1916-2006) and her seminal book *Death and Life of Great American Cities* (1961). The second is Rachel Carson (1907-1964) and her magnum opus, *Silent Spring* (1962). By reading first and secondary materials on them, students will learn how those two women are instrumental in bringing some of the basic norms to the contemporary society.

It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to read academic literature in English. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (英語)

水野 剛也

備考 (履修条件等)：学部「外書講読 (メディア社会学) 3A」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容についてゼミ形式で大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション (建設的な討論) をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を旨とする共同作業を意味する。

【到達目標】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション (建設的な討論) をする能力を養う。大学院生の受講者は、学部生を牽引し、研究者・指導者レベルのディスカッション (建設的な討論) をする能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、かつその内容についてゼミ形式で大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション (建設的な討論) をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を旨とする共同作業を意味する。

受講者数によるが、現時点では、全員が同じ文献・学術論文を精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。ゼミ形式で大学院に匹敵するハイレベルなディスカッションをするため、希望者が多数の場合は、何らかの方法で選抜する。

講義内容や文献・学術論文に関する質問には、基本的にはすべて講義内で答える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	全体説明
第2回	“Social Media and Youth Mental Health”	知見の発表
第3回	同上	ディスカッション
第4回	“Facebook Files”	知見の発表
第5回	同上	ディスカッション
第6回	“Portrayal Guidelines”	知見の発表
第7回	同上	ディスカッション
第8回	中間レビュー	中間的な総括
第9回	“Preventing Suicide”	知見の発表
第10回	同上	ディスカッション
第11回	“Predator”	知見の発表
第12回	同上	ディスカッション
第13回	“Shattered Glass”	知見の発表とディスカッション
第14回	総括	これまでの総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する英語の文献・学術論文をあらかじめ精読し、全体像を理解した上で、大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション (建設的な討論) のために所感・疑問などを整理しておくことが必須である。準備学習・復習時間は各2時間を標準とするものの、本格的な英語の文献・学術論文を多量に精読するため、一定程度の読解能力が必要で、その場合でも受講者によってはかなりの時間を要する。

【テキスト (教科書)】

適宜、教員が指示・配布する。

【参考書】

適宜、教員が指示・配布するが、ほとんどの場合、受講者自身が参考資料・文献を集める。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、おおまかに、授業参加 (ディスカッション含む) = 90%、その他 = 10%程度とする。その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。積極的な参加が評価を大きく左右する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、参加者のコメントや意見を取り入れるよう努める。

【担当教員の専門分野等】

<https://researchmap.jp/tm4b6>

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to experience the high-level, almost graduate-level practice of academic, constructive discussion based on reading of as much quality English-language literature on journalism and mass media studies as possible.

All participants must conduct sufficient preparatory as well as follow-up study in order to successfully earn credits for this course. Roughly speaking, approximately two hours of study will be needed both before and after each session, but the amount may increase for some participants as this course requires a relatively high level of English skills.

The final grade will be determined by the following factors: class activities (90%) and others (10%).

Participants will be graded not by exams, but by class activities including discussion. Participants must understand that mere attendance is far from enough to earn credits. Highly motivated class participation is imperative.

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (英語)

吉田 公記

備考 (履修条件等)：学部「外書講読 (メディア社会学) 3B」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目では社会学の学術誌に掲載された研究論文を講読し、英語文献の読み方の基礎を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた学術的な文章を正確かつ批判的に講読する技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では文単位で正確に理解することと、パラグラフなどまとまった単位で内容を理解することの両面に重点を置きながら読み進めていく。受講生は解説を聞いて各自の訳文 (場合によっては要約) を添削し、疑問点や問題点を解決する。提出課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。授業計画は展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明
第2回	講読論文を読む①	Abstractを読み、論文の全体像を把握する
第3回	講読論文を読む②	1 INTRODUCTIONを読む①
第4回	講読論文を読む③	1 INTRODUCTIONを読む②
第5回	講読論文を読む④	2 DIGITAL MEDIA AND THE RISE OF 'NEW' NATIONALISMを読む①
第6回	講読論文を読む⑤	2 DIGITAL MEDIA AND THE RISE OF 'NEW' NATIONALISMを読む②
第7回	講読論文を読む⑥	3 THE INVISIBLE REPRODUCTION OF NATIONALISM ONLINEを読む①
第8回	講読論文を読む⑦	3 THE INVISIBLE REPRODUCTION OF NATIONALISM ONLINEを読む②
第9回	講読論文を読む⑧	4 HAVE DIGITAL MEDIA CHANGED NATIONALISM?を読む①
第10回	講読論文を読む⑨	4 HAVE DIGITAL MEDIA CHANGED NATIONALISM?を読む②
第11回	講読論文を読む⑩	4 HAVE DIGITAL MEDIA CHANGED NATIONALISM?を読む③
第12回	講読論文を読む⑪	5 CONCLUSIONSを読む①
第13回	講読論文を読む⑫	5 CONCLUSIONSを読む②
第14回	まとめ	これまでに学んだ内容の整理

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に指定された範囲の訳文 (場合によっては要約) を準備し、わからなかった箇所や難しかった箇所は疑問点を明確にしておくこと。前々日までに学習支援システムから訳文 (場合によっては要約) を提出することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Sabina Mihelj and César Jiménez-Martínez, 2021, "Digital nationalism: Understanding the role of digital media in the rise of 'new' nationalism," Nations and Nationalism, 27(2): 331-346.
<https://doi.org/10.1111/nana.12685>

*本論文は、法政大学図書館のオンラインジャーナルで閲覧できる。

*なお、初回授業の時点で文献が入手困難な場合、変更する可能性がある。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題点：100%

*課題がほぼ毎回ある。内容は、①授業で読む範囲の訳文 (場合によっては要約) の提出 (授業前) と②自己添削物の提出 (授業後) が中心となる。

*評価は課題点をベースとするが、授業への参加姿勢なども考慮し、総合的に評価する。期末試験・期末レポートは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書 (電子辞書、スマートフォンの辞書でも可)

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業内および授業後に受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学

<研究テーマ> イギリスにおける排外主義

<主要研究業績>

・吉田公記, 2019「イギリスにおけるEU移民の福祉受給とミドルクラスの排外主義」『大原社会問題研究所雑誌』733：28-39.

・吉田公記, 2018「ワークフェア型福祉国家における移民の包摂と排除——イギリスの排外主義政党UKIPの躍進背景の考察」『年報社会学論集』31：48-59.

・ロジャース・ブルーベイカー著・佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳, 2016『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店 (第1章・第2章の翻訳を担当).

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn skills to read academic (sociological) papers written in English. Students are required to translate or summarize specified parts of the paper in advance to prepare for the classes.

Grading will be based on the following evaluation.

1) Assignments: 100%

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読1 (仏語)

高橋 愛

備考(履修条件等): 学部「フランス語3A (講読)・上級B1」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最新のフランス語圏事情に関する6編のテキスト(教科書の前半)と現地撮影の教材映像を通して、各テーマの重要語彙を身につけ、文法の注意点や構文の理解のしかたを学び、「フランス語で理解する」充実感が得られるレベルの語学力を無理なく養成します。パリと地方・海外県、就職事情、新型コロナウイルスの世界的流行以降のフランス人の消費志向、食生活の変化などを取り上げ、「読む」「聞く」「書く (Dictée)」 「語彙を増やす」に視点をおき、社会的・文化的背景についても把握します。

【到達目標】

・辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指します。
・イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、みずからフランス語で表現するうえで必要とされる全般的な知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定したテキストを予習し、授業では内容に即した教材動画を見ながら、構文や時制などに注意して、全員で確認します。(難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでください。) テキストを見たあと、その課で習得した単語の確認、テキストの内容に関する正誤判定問題、さらに語彙を広げる練習問題、Dictéeを行います。辞書を必ず持参すること。

・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを実施します。

・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unité 1 Bienvenue en France ! (フランスへようこそ!)	授業の進め方、教科書の説明 Texte, Vocabulaire, Grammaire
2	Unité 1 Bienvenue en France ! (フランスへようこそ!)	練習問題、Dictée
3	Unité 1 Bienvenue en France ! (フランスへようこそ!)	フランス文化事情: Les différents types de communes en France (du plus petit au plus grand)
4	Unité 2 Petit boulot ou job d'été (アルバイト事情)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
5	Unité 2 Petit boulot ou job d'été (アルバイト事情)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Les petits jobs pour les étudiants en France
6	Unité 3 On n'est pas dans la même zone. (時差式ヴァカンス)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
7	Unité 3 On n'est pas dans la même zone. (時差式ヴァカンス)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Les vacances des Français
8	Unité 4 France, pays de la gastronomie ? (美食の国フランス?)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
9	Unité 4 France, pays de la gastronomie ? (美食の国フランス?)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Les Français et la nourriture. Le saviez-vous ?
10	Unité 5 C'est la galère ! (フランスの若年層の失業率)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
11	Unité 5 C'est la galère ! (フランスの若年層の失業率)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Les jeunes et le monde du travail en France
12	Unité 6 Un TGV tout en couleurs ! (目的地に応じて色を変えるTGV)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
13	Unité 6 Un TGV tout en couleurs ! (目的地に応じて色を変えるTGV)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Pour voyager tranquille!
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

モーリス・ジャケ、舟杉真一『デクリプタージュ』(改訂版)、白水社、2022年。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで学んだ文法の復習を丁寧に行いながら、フランスを理解するうえで不可欠な社会背景や語彙を学び、バランスよくフランス語の力が身につく授業を行います。

・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てください。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。(メールも可。)

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (仏語)

高橋 愛

備考(履修条件等): 学部「フランス語4A(講読)・上級B4」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

春学期に引き続き、最新のフランス語圏事情に関する6編のテキスト(教科書の後半)と現地撮影の教材映像を通して、各テーマの重要語彙を身につけ、文法の注意点や構文の理解のしかたを学び、「フランス語で理解する」充実感が得られるレベルの語学力を無理なく養成します。パリと地方・海外県、就職事情、新型コロナウイルスの世界的流行以降のフランス人の消費志向、食生活の変化などを取り上げ、「読む」「聞く」「書く(Dictée)」「語彙を増やす」に視点をおき、社会的・文化的背景についても把握します。

【到達目標】

・辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指します。
・イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、みずからフランス語で表現するうえで必要とされる全般的な知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定したテキストを予習し、授業では内容に即した教材動画を見ながら、構文や時制などに注意して、全員で確認します。(難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでください。)テキストを見たあと、その課で習得した単語の確認、テキストの内容に関する正誤判定問題、さらに語彙を広げる練習問題、Dictéeを行います。辞書を必ず持参すること。

・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを実施します。

・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unité 7 C'est la rentrée!(フランスの新学期事情)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
2	Unité 7 C'est la rentrée!(フランスの新学期事情)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Les petits jobs pour les étudiants en France
3	Unité 8 Japophiles(日本びいき)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
4	Unité 8 Japophiles(日本びいき)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Le système scolaire français. Passer dans la classe supérieure.
5	Unité 9 La France d'outre-mer(海の向こうのフランス)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
6	Unité 9 La France d'outre-mer(海の向こうのフランス)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Les îles et les territoires français dans le monde
7	Unité 10 Consommateur responsable(フランス人の消費志向の変化)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
8	Unité 10 Consommateur responsable(フランス人の消費志向の変化)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Quel est le budget d'une famille française?
9	Unité 11 Paris(パリの建築物の歴史)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
10	Unité 11 Paris(パリの建築物の歴史)	練習問題、Dictée フランス文化事情: Paris et ses monuments. Le saviez-vous?
11	Unité 12 Au revoir et merci!(フランス留学を終えるとき)	Texte, Vocabulaire, Grammaire
12	Unité 12 Au revoir et merci!(フランス留学を終えるとき)	練習問題、Dictée フランス文化事情: 留学生がフランスでびっくりすること
13	総復習	全体のふりかえり

14

まとめと解説

まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

モーリス・ジャケ、舟杉真一『デクリプタージュ』(改訂版)、白水社、2022年。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで学んだ文法の復習を丁寧に行いながら、フランスを理解するうえで不可欠な社会背景や語彙を学び、バランスよくフランス語の力が身につく授業を行います。

・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てください。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。(メールも可。)

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等)：学部「ドイツ語3A (講読)・上級B1」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「旅行」、「グリム童話」、「世界遺産」、「発明品」、「旧東ドイツ」、「交響曲第9番」など、ドイツ語圏の文化にかんするさまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、文法の知識を深め、語彙を増やしながら、ドイツ語の読解力を向上させます。また、それを通してドイツ文化についても視野を広げます。

【到達目標】

- ・一般的なドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。
 また、内容理解問題や文法問題、ゲームや聞き取り練習、発音練習などにも取り組み、ヴァラエティに富んだ練習を通してドイツ語の読解力を中心とした運用能力を高めていきます。
 予習の内容や質問には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Kapitel 0 : Hallo!	授業の進め方 自己紹介
2	Kapitel 1 : Deutschland (ドイツ)	「ドイツ旅行の魅力」
3	Lesetext 1 Kapitel 1	「数字で見るドイツ」
4	Lesetext 2 Kapitel 1	前置詞、比較級と最高級
5	練習問題 Kapitel 2 : Reisen mit Zug und Fahrrad (鉄道と自転車の旅)	「鉄道旅行」
6	Lesetext 1 Kapitel 2	「自転車旅行」
7	Lesetext 2 Kapitel 2	接続法第I式、分離・非分離動詞、不定関係代名詞、関係副詞
8	練習問題 Kapitel 3 : Aus dem Märchenwald (昔話 の森から)	「昔話を超える昔話」
9	Lesetext 1 Kapitel 3	「私は誰でしょう?」
10	Lesetext 2 Kapitel 3	話法の助動詞とlassen、従属接続詞と並列接続詞
11	練習問題 Kapitel 4 : Wien (ウィーン)	「ウィーンからのブログ」
12	Lesetext 1 Kapitel 4	「天国のサリエリ (1750-1825) の映画雑誌への投稿」
13	Lesetext 2 Kapitel 4	仮主語esの用法、絶対比較級と絶対最高級
14	練習問題 補足と復習	授業内容の補足と復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
 授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Ute Schmidt・Mechthild Duppel-Takayama・三ツ石祐子・和泉雅人『kennzeichen.de: Faust und Mephisto ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化8章プラス・エクストラ』(三修社)

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)
 在間進『リファレンス・ドイツ語』(第三書房)
 その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応したい。

【担当教員の専門分野】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading texts on various topics about the culture of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等)：学部「ドイツ語4A (講読)・上級B4」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「旅行」、「グリム童話」、「世界遺産」、「発明品」、「旧東ドイツ」、「交響曲第9番」など、ドイツ語圏の文化にかんするさまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、文法の知識を深め、語彙を増やしなが、ドイツ語の読解力を向上させます。また、それを通してドイツ文化についても視野を広げます。

【到達目標】

- ・一般的なドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。
 また、内容理解問題や文法問題、ゲームや聞き取り練習、発音練習などにも取り組み、ヴァラエティに富んだ練習を通してドイツ語の読解力を中心とした運用能力を高めていきます。
 予習内容や質問には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kapitel 5 : Welterbe (世界遺産) Lesetext 1	「世界遺産全般」
2	Kapitel 5 Lesetext 2	「世界文化遺産」
3	Kapitel 5 練習問題	分詞構文、受動態
4	Kapitel 6 : Deutschland - Land der Ideen (アイデア大国ドイツ) Lesetext 1	「発明品」
5	Kapitel 6 Lesetext 2	「足のためのベッド」
6	Kapitel 6 練習問題	定関係代名詞、不定詞句
7	Kapitel 7 : Es war einmal die DDR (かつて東ドイツという国があった) Lesetext 1	「ベルリンの壁の崩壊」
8	Kapitel 7 Lesetext 2	「オスタルギー」
9	Kapitel 7 練習問題	接続法第Ⅱ式、wennの用法
10	Kapitel 8 : Rund um die Neunte (第9をめぐって) Lesetext 1	「新しい音楽、新しい絵画」
11	Kapitel 8 Lesetext 2	「日本での初演」
12	Kapitel 8 練習問題	wieの用法、非人称熟語表現、認容表現の基本

13	Extra : Fest und Feiertage (祭りと祝日) 1. Vorlesung	「クリスマス」
14	Extra 2. Vorlesung	「大晦日」

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
 授業後には、事前にわからなかった箇所や間違っ箇所を復習する。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Ute Schmidt・Mechthild Duppel-Takayama・三ツ石祐子・和泉雅人『kennzeichen.de: Faust und Mephisto ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化8章プラス・エクストラ』(三修社)

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)
 在間進『リファレンス・ドイツ語』(第三書房)
 その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応したい。

【担当教員の専門分野】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading texts on various topics about the culture of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (中国語)

綿貫 哲郎

備考(履修条件等): 学部「中国語3A(講読)・上級B1」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代漢語(中国語)で書かれた論文を正確に読み解く練習・訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中華民族や漢族に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

1. 現代中国における民族問題の基本的な情報について解説することができる
2. 漢族と少数民族について、基本的な歴史的経緯について説明することができる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れ、日本語のふさわしい文章語としても表現できる
4. 辞書を引くことに習熟しながら、原文の単語の類義語または日本語の意味の広がりや「類推する力」を涵養する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

主語・述語・修飾語・補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字(ピンイン)つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論文の基礎(1)	中国語論文の仕組み
2	論文の基礎(2)	アブストラクト
3	論文の基礎(3)	読み進め方
4	論文の基礎(4)	専門用語と翻訳
5	精読の基礎(1)	文成分/構造分析① 主語/述語
6	精読の基礎(2)	文成分/構造分析② 連体修飾語/連用修飾語
7	精読の基礎(3)	文成分/構造分析③ 補語/その他の文成分
8	精読の基礎(4)	辞書/webの活用を使いこなす
9	精読の基礎(5)	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎(6)	辞書にない事項の検索
11	文章の精読(1)	中国民族問題の基礎を読み解く①
12	文章の精読(2)	中国民族問題の基礎を読み解く②
13	文章の精読(3)	中国民族問題の基礎を読み解く③
14	文章の精読(4)	中国民族問題の基礎を読み解く④

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 確実な予習
 2. 「中級」までの文法の系統的復習
 3. 新聞・雑誌・web等の記事検索
 4. 関連項目の調査・読書等
 5. 確実な訳文の再確認・再構築等
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

中国民族問題の基礎を理解する論文を用意し、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」・「中級」と積み上げてきた中国語なので、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた2年次程度の内容から始める。

将来の留学や研究・業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎である。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済・社会・文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

多摩キャンパスでの対面授業に出席が難しい場合には、事前に学習支援システム経由で連絡のこと。

【担当教員の専門分野等(＜専門領域＞・＜研究テーマ＞・＜主要研究業績＞)】
以下のResearchmapのURLを参照してください。 <https://researchmap.jp/twatanuki/>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

The aim of this course is to further deepen students' understanding of modern the Chinese nation and the Han Chinese through repeated training in accurately reading articles written in modern Chinese (Mandarin).

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Explain basic information on ethnic issues in contemporary China.
2. Explain the basic historical background of the Han and ethnic minorities.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

1. reliable preparation
2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.
3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
4. Research and read about related topics.

2. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (中国語)

綿貫 哲郎

備考 (履修条件等) : 学部「中国語4A (講読)・上級B4」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代漢語 (中国語) で書かれた論文を正確に読み解く練習・訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中華民族や漢族に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

- 漢族または少数民族側に入った用語の使い方やその立場が理解できるようになる
- 専門用語の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける
- 学修 (翻訳) 後のリライトで訳文を再確認・再構築することで、中国語の文化と日本の文化との違いを理解できる
- 今後の研究に必要な中国語文献等の読解の基礎力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用・慣用的表現にも習熟していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文章の精読 (1)	文成分、構造分析をしながらの精読 (1)
2	文章の精読 (2)	文成分、構造分析をしながらの精読 (2)
3	文章の精読 (3)	文成分、構造分析をしながらの精読 (3)
4	文章の精読 (4)	文成分、構造分析をしながらの精読 (4)
5	文章の精読 (5)	文成分、構造分析をしながらの精読 (5)
6	文章の精読 (6)	文成分、構造分析をしながらの精読 (6)
7	文章の精読 (7)	文成分、構造分析をしながらの精読 (7)
8	多読、速読 (1)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (1)
9	多読、速読 (2)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (2)
10	多読、速読 (3)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (3)
11	多読、速読 (4)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (4)
12	多読、速読 (5)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (5)
13	多読、速読 (6)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (6)
14	多読、速読 (7)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (7)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 確実な予習
- 「中級」までの文法の系統的復習
- 新聞・雑誌・web等の記事検索
- 関連項目の調査・読書等
- 確実な訳文の再確認・再構築等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

中国民族問題の基礎を理解する論文を用意し、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来を楽しみに、一緒に辞書を引きましょう。

多摩キャンパスでの対面授業に出席が難しい場合には、事前に学習支援システム経由で連絡のこと。

【担当教員の専門分野等 (＜専門領域＞・＜研究テーマ＞・＜主要研究業績＞)】
以下のResearchmapのURLを参照してください。 <https://researchmap.jp/twatanuki/>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

The aim of this course is to further deepen students' understanding of modern the Chinese nation and the Han Chinese through repeated training in accurately reading articles written in modern Chinese (Mandarin).

【到達目標 / Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To be able to understand the terminology used and its position on the side of the Han Chinese or ethnic minorities.
- Be able to accurately analyze sentence components.
- Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
- Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
- To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等) / Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- reliable preparation
- Systematic review of grammar up to the intermediate level.
- Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
- Research and read about related topics.
- Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等) / Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- reliable preparation
- Systematic review of grammar up to the intermediate level.
- Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
- Research and read about related topics.
- Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 / Grading criteria】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

SOC500E1 - 0309 (社会学 / Sociology 500)

社会学原典講読

二村 まどか

備考 (履修条件等)：博士後期課程「社会学原典研究1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際問題や各国事情を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事を読みながら、難易度の高い英文に慣れ親しむと同時に、国際社会の時事問題についての理解を深める。

【到達目標】

短いながらも難易度の高い論説記事の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

3~4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画及び扱うテキストや記事の内容は、受講者の関心分野に合わせて変更。調整する可能性もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題(英文要約)について
第2回	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
第3回	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
第4回	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
第5回	The Economist の記事 ②	テキストの和訳と内容把握
第6回	The Economist の記事 ②	テキストの和訳と内容把握
第7回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第8回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第9回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第10回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第11回	The Economist の記事 ③	テキストの和訳と内容把握
第12回	The Economist の記事 ③	テキストの和訳と内容把握
第13回	The Economist の記事 ④	テキストの和訳と内容把握

第14回 The Economist の テキストの和訳と内容把握
記事
④

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること (逐語訳をしてくる必要はない)。各文献を読み終えた後、【英文要約】(300-400 words)を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と国際問題を扱う学術雑誌の論文を用いる。テキストは授業で配布する。なお、テキストの内容は、受講者の関心に合わせて変更する場合もある。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など)：30%
課題の提出 (各記事の英文要約)：70%

【学生の意見等からの気づき】

扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の達成感が高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなで解きほぐしていけるかを模索しています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際関係論

<研究テーマ> 国際安全保障、平和構築、国際刑事裁判

【Outline (in English)】

This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed by submitted summaries and their class participation. The course is for those with advanced English level.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文（共編著：丹羽美之）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

臨床社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学

<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

鈴木 智之

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
文化社会学、理論社会学
<研究テーマ>
語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

藤代 裕之

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」を確認してください。
<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文(共編著：丹羽美之)『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

臨床社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学

<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民-日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

鈴木 智之

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
文化社会学、理論社会学
<研究テーマ>
語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

藤代 裕之

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」を確認してください。
<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

鈴木 智之

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、理論社会学

<研究テーマ>

語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

田嶋 淳子

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
<研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
<主要研究業績>

1. 『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
2. 「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂、2018年
3. 「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第13号、66 - 78ページ、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正(4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

鈴木 智之

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正(4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、理論社会学

<研究テーマ>

語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

田嶋 淳子

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正(4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
<研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
<主要研究業績>

- 『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
- 「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂、2018年
- 「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第13号、66-78ページ、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正(4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I A**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I A

佐藤 成基

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学
<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究、社会学の理論・学説、歴史社会学
<主要研究業績>
『国家の社会学』（青弓社、2014年）
『国民とは誰のことか ドイツ近現代における国籍法の形成と展開』（花伝社、2023年）
『国家の正当性と象徴暴力 ―ブルデューの国家論からみる国家とナショナリズム』北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学 第1巻 理論と方法』（岩波書店、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I A

堅田 香緒里

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉学、貧困研究
<研究テーマ>対貧困政策
<主要研究業績>「生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察」『福祉社会学研究』16巻。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I A

小林 直毅

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I B**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I B

佐藤 成基

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究、社会学の理論・学説、歴史社会学

<主要研究業績>

『国家の社会学』（青弓社、2014年）

『国民とは誰のことか ドイツ近現代における国籍法の形成と展開』（花伝社、2023年）

『国家の正当性と象徴暴力 ―ブルデューの国家論からみる国家とナショナリズム』北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学 第1巻 理論と方法』（岩波書店、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I B

堅田 香緒里

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉学、貧困研究

<研究テーマ>対貧困政策

<主要研究業績>「生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察」『福祉社会学研究』16巻。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I B

小林 直毅

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0102 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡA**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0102 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡA

鈴木 智之

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
文化社会学、理論社会学
<研究テーマ>
語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0103 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡB**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0103 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡB

鈴木 智之

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
文化社会学、理論社会学
<研究テーマ>
語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

慎 蒼宇

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

岡野内 正

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会理論、国際政治経済学

<研究テーマ> グローバル・ベーシック・インカム研究

<主要研究業績> 岡野内正 『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）、岡野内他著 『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年）など。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

徳安 彰

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

鈴木 智之

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、理論社会学

<研究テーマ>

語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

藤田 真文

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB**社会学専攻教員**

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

慎 蒼宇

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

岡野内 正

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会理論、国際政治経済学
<研究テーマ> グローバル・ベーシック・インカム研究
<主要研究業績> 岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）、岡野内他著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年）など。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

徳安 彰

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

鈴木 智之

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
文化社会学、理論社会学
<研究テーマ>
語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

藤田 真文

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0200 (社会学 / Sociology 700)

社会学総合演習A**社会学専攻教員**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを本科目の目的とする。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

【到達目標】

査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

7月下旬頃に、院生が査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文に対して、複数の教員が「模擬査読」をおこなう「投稿論文検討会」を開催する。履修学生は所定の期限（6月末予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「投稿論文検討会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成指導 (1)	指導教員による
第2回	論文作成指導 (2)	指導教員による
第3回	論文作成指導 (3)	指導教員による
第4回	論文作成指導 (4)	指導教員による
第5回	論文作成指導 (5)	指導教員による
第6回	投稿論文検討会	1時限
第7回	投稿論文検討会	2時限
第8回	投稿論文検討会	3時限
第9回	投稿論文検討会	4時限
第10回	投稿論文検討会	5時限
第11回	論文改善指導 (1)	模擬査読担当者による
第12回	論文改善指導 (2)	模擬査読担当者による
第13回	論文改善指導 (3)	模擬査読担当者による
第14回	論文改善指導 (4)	模擬査読担当者による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

提出された研究論文と当日の報告内容をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice. Grading (P/F) will be decided based on whether you present a paper or not.

SOC700E1 - 0201 (社会学 / Sociology 700)

社会学総合演習B

社会学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究の指針を得ることを目的とする。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

【到達目標】

先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

12月中旬頃に、博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を開催する。履修学生は所定の期限（1月中旬予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会前の博論構想指導、報告会後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。

課題等へのフィードバックは「博論構想報告会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博論構想指導 (1)	指導教員による
第2回	博論構想指導 (2)	指導教員による
第3回	博論構想指導 (3)	指導教員による
第4回	博論構想指導 (4)	指導教員による
第5回	博論構想指導 (5)	指導教員による
第6回	博論構想報告会	1時限
第7回	博論構想報告会	2時限
第8回	博論構想報告会	3時限
第9回	博論構想報告会	4時限
第10回	博論構想報告会	5時限
第11回	博論執筆指導 (1)	指導教員による
第12回	博論執筆指導 (2)	指導教員による
第13回	博論執筆指導 (3)	指導教員による
第14回	博論執筆指導 (4)	指導教員による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

博論構想報告会当日の報告をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students. Grading (P/F) will be decided based on whether you report your plan for the dissertation or not.

SOC500E1 - 0200 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 1

GEORGE HANN

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

【到達目標】

- Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- Reflecting and analyzing ideas.
- Responding to other's ideas.
- Reading critically.
- Understanding the components of an argument.
- Understanding the structure of an argument.
- Reasoning for or against a claim.
- Presenting ideas from external sources.
- Synthesizing multiple sources.
- Formulating and presenting an original argument.
- Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's "On Writing Well"). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Guidance/Introductions	<ul style="list-style-type: none"> • Syllabus and course explanation • General essay structure • Rd. Jackie Robinson's Free Minds and Hearts at Work • Free Minds and Hearts at Work class discussion • Draft 1
第2回	Summary & Response	<ul style="list-style-type: none"> • How to write a summary and response • Peer review - What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing? • Rd. Zinsser Chs. 1-2 • Draft 2
第3回	Summary & Response continued	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss Zinsser Chs. 1-2 • Comma usage • Summary & Response Final Draft • Rd. Zinsser Chs. 3-4
第4回	Critique Essay	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss Zinsser Chs. 3-4 • Cutting clutter • Rd. Kaplan's Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education • Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric • Introduce your article (summary and response)

第5回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none"> • What is a critique and how to write one • Discuss Kaplan • When to use passive/active voice • Rd. Zinsser Chs. 5-7 • Draft 1
第6回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss Zinsser Chs. 5-7 • Citing sources (APA format) • Logos, Pathos, Ethos • Draft 2 • Logical fallacies
第7回	Research Paper	<ul style="list-style-type: none"> • Final draft • Logical fallacies continued • Organization of a research paper
第8回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> • Rd. Zinsser Chs. 8-9 • Synthesizing sources
第9回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss Zinsser Chs. 8-9 • Draft 1 • Peer Review
第10回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> • Draft 2 • Peer Review
第11回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> • Final Draft • Preparing a poster presentation
第12回	Poster Presentation	<ul style="list-style-type: none"> • Work on poster presentations
第13回	Poster Presentation continued	
第14回	Poster Presentation continued	<ul style="list-style-type: none"> • Poster presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Course readings; essay writing; presentation preparation

【テキスト (教科書)】

William Zinsser On Writing Well, 25th Edition

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Summary & Response Essay: 20%

Critique Essay: 25%

Research Essay: 25%

Poster Presentation: 20%

Class Discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer, Webcam, Internet connection.

【その他の重要事項】

授業形態：対面/オンライン

【担当教員の専門分野等】

英語教育学

【研究テーマ】

CALL; Drama in Language Education

【主要研究業績】

Matsumura, Shoichi, and George Hann. 2004. Computer anxiety and students' preferred feedback methods in EFL writing. The Modern Language Journal 88: 403- 15.

【Outline (in English)】

In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

SOC500E1 - 0201 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 2

丸山 里美

備考(履修条件等): 修士課程「社会学特殊研究 5」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

【概要】

本クラスでは、個人報告と文献講読によって、1) 臨床社会学的研究、2) 質的調査研究とそれを論文としてまとめる方法について学びます。

【目的】

以上を通して、受講生各自が自分自身の研究力を向上させることを目的とします。

【到達目標】

- ・臨床社会学的視点とは何かについて、説明することができる。
- ・質的調査方法論を理解し、自分の研究に活かすことができる。
- ・自分自身の質的データにもとづく研究について、社会学的学術論文としてまとめあげていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式(個人報告および文献講読)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方
第2回	個人報告	受講生が自分自身の研究について報告し、ディスカッション
第3回	個人報告	受講生が自分自身の研究について報告し、ディスカッション
第4回	文献講読	指定文献の第1章(『質的調査の方法』)を読み、質的調査の特徴を理解する
第5回	文献講読	指定文献の第1章(『質的調査の方法』)を読み、フィールドワークについて、その特徴を理解する
第6回	文献講読	指定文献の第1章(『質的調査の方法』)を読み、参与観察について、その特徴を理解する
第7回	文献講読	指定文献の第4章(『質的調査の方法』)を読み、生活史法について、その特徴を理解する
第8回	文献講読	指定文献の第1章(『女性ホームレスとして生きる』)を読み、質的調査の設計の仕方について理解する
第9回	文献講読	指定文献の第1章(『女性ホームレスとして生きる』)を読み、先行研究のレビューの仕方、問の設定の方法について理解する
第10回	文献講読	指定文献の付録(『女性ホームレスとして生きる』)を読み、質的データを研究として発展させていく方法を学ぶ
第11回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション
第12回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション
第13回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション
第14回	個人報告	受講生が自身の調査データを報告し、ディスカッション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
初日の授業では、受講生に各自の研究報告をしてもらいますので、事前に報告準備をしておいてください。
その他、授業内で指示された指定文献を事前に読んでくること、それ以外に授業内で指示された報告の準備をすることが必要になります。

【テキスト(教科書)】

- ・丸山里美, 2021(2013), 『女性ホームレスとして生きる——貧困と排除の社会学』増補新装版』世界思想社
- ・岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告(50%)、ディスカッション(50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報共有・連絡のために、学習支援システムを利用します。受講前に確認しておいてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

ジェンダー論、貧困研究、質的調査法

<研究テーマ>

貧困とジェンダー

<主要研究業績>

丸山里美, 2021(2013), 『女性ホームレスとして生きる——貧困と排除の社会学』増補孫装版』世界思想社
岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about 1) clinical sociological research and 2) qualitative research studies and how to compile them into a thesis through individual reports and literature readings.

(Learning Objectives)

The aim is for each student to improve his or her own research skills.

(Learning activities outside of classroom)

On the first day of class, students will be asked to report on their own research, so please prepare your report in advance. In addition, students are required to read the designated literature in class in advance and to prepare other reports as instructed in class.

(Grading Criteria/Policy)

Presentation (50%), Discussion (50%)

SOC500E1 - 0202 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 3

三輪 誠司

備考(履修条件等)：修士課程「社会学特殊研究 6」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この講義では、インターネットを通じて情報発信の具体的な手法について、プログラミングを通じて学んでいきます。

国や自治体は、さまざまな情報をWEBサイトを通じて発信しているほか、再利用が可能な形式(CSVやエクセルなど)で「オープンデータ」として公開する動きが進んでいます。ジャーナリストは、それらの情報を効率的に収集し、分析することが求められます。

講義では、オープンデータの収集方法を手を動かして学ぶほか、現在のインターネットにおける最も代表的な情報発信方法であるWEBアプリケーションについて学びます。プログラミングによって自分でWEBアプリケーションを開発し、データの配備方法について体験します。同時に、個人情報など、外部に公開したくないデータがどうして流出してしまうのかなど、情報セキュリティの基本についても、自前のWEBアプリケーションを通じて体験していきます。

【到達目標】

行政・企業・個人がネットを通じて情報発信する時代に、それに応じた情報収集ができるようになる。また、WEBアプリを自作することで、行政・企業など情報発信する側の目線に立ち、効果的に情報提供をするための方法、オープンデータの提供のありかた、提供データはどのような構造にするべきかなどについて考察し、提言できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布した資料をもとに講義を進めます。講義では実際に手を動かす実践形式でプログラミングスキルを定着させるよう工夫しています。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ネット時代の情報公開	講義を通して、行政や企業がインターネットでどのように情報公開をしているのか、実例を学びます。オープンデータの現状とアクセス手法についても実習を通して学び、実例を探して発表してもらいます。
第2回	開発環境構築と簡単なプログラミング	RubyによるWEB開発のための環境構築(JRubyを使います)を実習を通して学びます。実行環境とエディタのインストール、基本的な使い方を学びます。
第3回	Ruby 言語の基礎	講義で Ruby の基本を学びます。また、インストールした Ruby 実行環境を使って簡単なプログラミングを実習で体験します。さらに目的を達成するためのプログラムを考案し発表してもらいます。
第4回	Sinatra でアプリの骨格を作る	Ruby による WEB アプリフレームワークの Sinatra(https://sinatrarb.com/)を使い、WEB アプリを作る実習を行います。
第5回	Sinatra でアプリの拡張をする	画面周りの変更を実習を通して学びます。この際 HTML の記述方法も講義と実習で学びます。
第6回	グামীデータの格納とアクセス	オープンデータに似せたグামীデータを、作成した WEB アプリに格納し、データを公開する実習を行います。ブラウザやコマンドラインツールを使ってアクセスできることを実習によって確認します。
第7回	画面作成の手法 1・CSS とフレームワーク	自作した WEB アプリについて、書式を定義する CSS を使って文字やレイアウトの変更をする実習を行います。また、CSS フレックワークである Bootstrap の使い方を実習を通して学びます。
第8回	画面作成の手法 2・Javascript	ブラウザで動作するプログラミング言語 Javascript によって、動的な画面出力が可能になることを講義と実習で学びます。

第9回	WEBアプリの強化・WEBフォームでパラメーター送信	WEBフォームによって、インタラクティブなWEBアプリが作れることを講義と実習で学びます
第10回	アプリの強化・データベース連携	WEBアプリをデータベースと連携させ、高機能なWEBアプリになるよう拡張する実習を行います。
第11回	アプリの強化・データベースセキュリティの基礎	高機能なWEBアプリに起きがちなセキュリティ対策について講義で学びます。インシデントの具体的なケースを公表データで学びます。
第12回	アプリ改造のヒント	独自のWEBアプリを作るため、これまでのアプリをどのように改造できるかというヒントを講義で学びます。それをもとにこれまで作ったアプリを改造する実習を行います。
第13回	アプリ改造の実践	これまでのアプリの改造や独自の画面などの開発を実習していきます
第14回	独自アプリの披露と検証	独自に開発したWEBアプリを披露してもらいます。また、WEBアプリの最新動向や可能性についても講義で学びます

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

市販の教科書は使用しません

【参考書】

市販の参考書は使用しません

【成績評価の方法と基準】

最後に独自のWEBアプリを開発してもらいます。その中で理解度についての評価を行います(100%)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更により、なし

【学生が準備すべき機器他】

WindowsPCを利用します。必要なソフトウェアは、講義の中で説明し、インストールしていきます

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディアとデジタルテクノロジー

<研究テーマ>報道現場におけるDXと、メディアにおけるデジタル人材育成<主要研究業績>ロボット記者を目指したITツールの開発。ユーザー企業のAI活用。情報セキュリティ全般

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn specific methods of information dissemination through the Internet by utilizing programming.

Countries and local governments are increasingly using websites to disseminate various information, and there is a growing trend to publish information in reusable formats (such as CSV or Excel) as "open data." Journalists are required to efficiently collect and analyze this information.

In the lecture, we will actively learn the methods of collecting open data through hands-on activities. Additionally, we will study web applications, which are currently the most representative means of information dissemination on the Internet. Through programming, participants will develop their own web applications and gain experience in deploying data. Simultaneously, we will explore the basics of information security by experiencing aspects such as how data, including personal information, might unintentionally leak through one's own web application.

In an era where disseminating information through the Internet has become commonplace, it is essential for modern professionals, including journalists, to understand the basics of internet communication, programming necessary for automation, and information security. In the age where administrations, businesses, and individuals communicate information through the internet, the goal of this course is to enable individuals to collect information in accordance with these developments.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process understanding of the application development (100%) .

SOC500E1 - 0203 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 1

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士課程「調査研究法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究において、受講生各自が社会調査を企画・設計し、実施し、分析をおこなうために必要な知識と技法を習得する。そのために社会学の優れた調査研究やそれに関連する方法論的な文献を講読し、社会学の各文献の問題関心とそこから導き出されたデータ収集・分析法について学ぶ。さらに、受講者が各自の問題関心に応じた調査の設計やデータ分析の方向性を構想するとともに、受講生同士のディスカッションを通してその具体化と洗練を図る。

【到達目標】

- ・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
- ・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインでの演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論 1	社会学と社会調査
第2回	総論 2	社会調査の諸類型
第3回	総論 3	社会調査の倫理
第4回	研究計画 1	研究テーマに関する先行研究のフォローと課題の鮮明化
第5回	研究計画 2	既存統計データの加工・分析
第6回	フィールドワークの企画・設計 1	調査のテーマ、主旨と目的
第7回	フィールドワークの企画・設計 2	調査の範囲、予算とスケジュール
第8回	フィールドワークの企画・設計 3	調査研究法の選択
第9回	フィールドワークの実際 1	観察調査とインタビュー調査
第10回	フィールドワークの実際 2	テキストデータの分析
第11回	フィールドワークの実際 3	受講者の研究への応用に関する討論
第12回	社会関係を計量する 1	調査の実例から
第13回	社会関係を計量する 2	受講者の研究への応用に関する討論
第14回	各自の調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したりリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したりリサーチデザインの報告レジュメを作成すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

各回ごとで授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 50%、報告の内容評価 50%、十分に準備した報告を行い、論文テーマに相応しい調査計画を立案できていること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学生支援システムへのPCによるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格のH科目に該当する。
修士課程「調査研究法」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学

<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. By the end of the course, students will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics and recent excellent research. In addition, students will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class presentation:50%, in class contribution:50%

SOC500E1 - 0204 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法2

胡中 孟徳

備考（履修条件等）：修士課程「統計分析法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線形代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第6回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と重回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	重回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏重回帰係数の検定とモデルの評価	偏重回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40%）とレポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>教育社会学・生活時間研究
<研究テーマ>生活時間と格差
<主要研究業績>

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤涉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018年、章分担任執筆）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports (60%). The goal of this course is to understand the basics of multivariate analysis, mainly through the study of multiple regression and factor analysis. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 0205 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法3

堀川 三郎

備考(履修条件等)：修士課程「質的資料分析法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送などの質的データの分析法(内容分析等)を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い/調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー/参与観察/ドキュメント分析/観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー/ライフヒストリー/GTA/会話分析
第4回	実践的課題1(資料を集める)	質問とは何か/ラポールをめぐる論争/調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2(資料を分析する)	記録をつくる/テーマをたてる/データの特性を整理する
第6回	実践的課題3(資料を記述する)	書くとはどういうことか/調査倫理
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美(2016)『質的社会調査の方法』有斐閣
2. 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法：理論・方法・実践』新曜社

【成績評価の方法と基準】

討議への参加(40%)、演習課題への取り組み(60%)

【学生の意見等からの気づき】

非該当(N/A)

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学、日米比較社会論

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』(東京大学出版会、2018年)、Why Place Matters(Springer, 2021)など

【Outline(in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.

First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.

Learning Objectives

Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC500E1 - 0206 (社会学 / Sociology 500)

社会学原典研究 1

二村 まどか

備考（履修条件等）：修士課程「社会学原典講読」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題や各国事情を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事を読みながら、難易度の高い英文に慣れ親しむと同時に、国際社会の時事問題についての理解を深める。

【到達目標】

短いながらも難易度の高い論説記事の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画及び扱うテキストや記事の内容は、受講者の関心分野に合わせて変更。調整する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について
第2回	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
第3回	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
第4回	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
第5回	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
第6回	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
第7回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第8回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第9回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第10回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第11回	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
第12回	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
第13回	The Economist の記事④	テキストの和訳と内容把握
第14回	The Economist の記事④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と国際問題を扱う学術雑誌の論文を用いる。テキストは授業で配布する。
なお、テキストの内容は、受講者の関心に合わせて変更する場合もある。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）：30 %
課題の提出（各記事の英文要約）：70 %

【学生の意見等からの気づき】

扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の達成感が高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなて解きほぐしていけるかを模索しています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際関係論

<研究テーマ> 国際安全保障、平和構築、国際刑事裁判

【Outline (in English)】

This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed by submitted summaries and their class participation. The course is for those with advanced English level.

